

2025年1月～2025年12月

御浜町観光アンケート・消費調査

2026/2

御浜町エリアマネジメント調整会議

アンケート調査で把握する情報

①観光客向け

- ・ 観光目的
- ・ 御浜町の認知度、リピート
- ・ 道の駅の認知度・満足度
- ・ 御浜町の観光の可能性
- ・ 宿泊の有無、宿泊地
- ・ 消費金額

②地元住民（近隣住民）向け

- ・ 消費金額
- ・ Kii Cardの保有について

アンケート調査概要

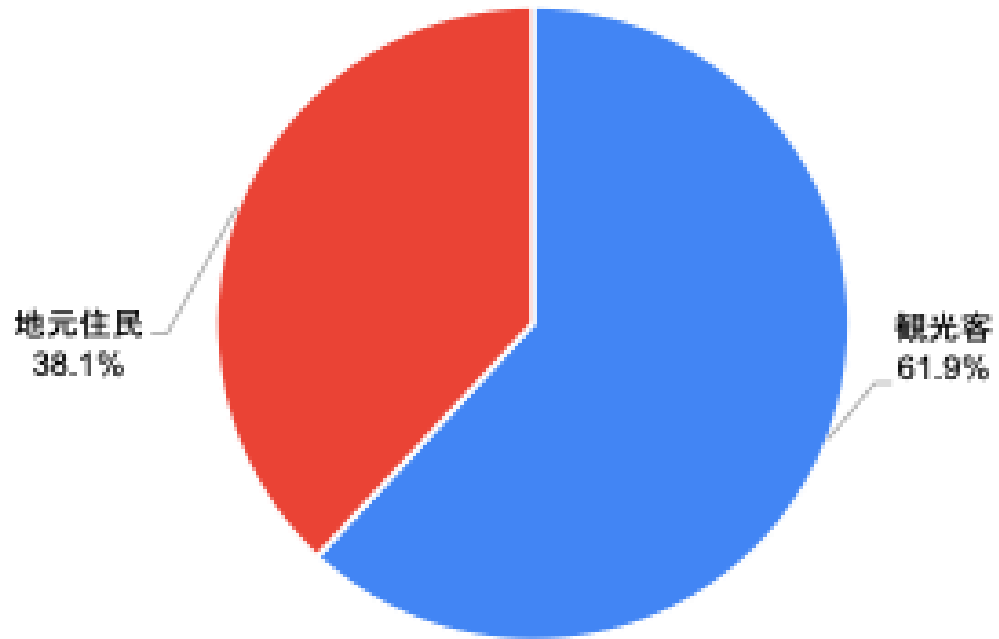
時期：2025年1月～2025年12月

頻度：月1回

実施場所：道の駅パーク七里御浜内

対象者：道の駅訪問者

回答数



(n=231)

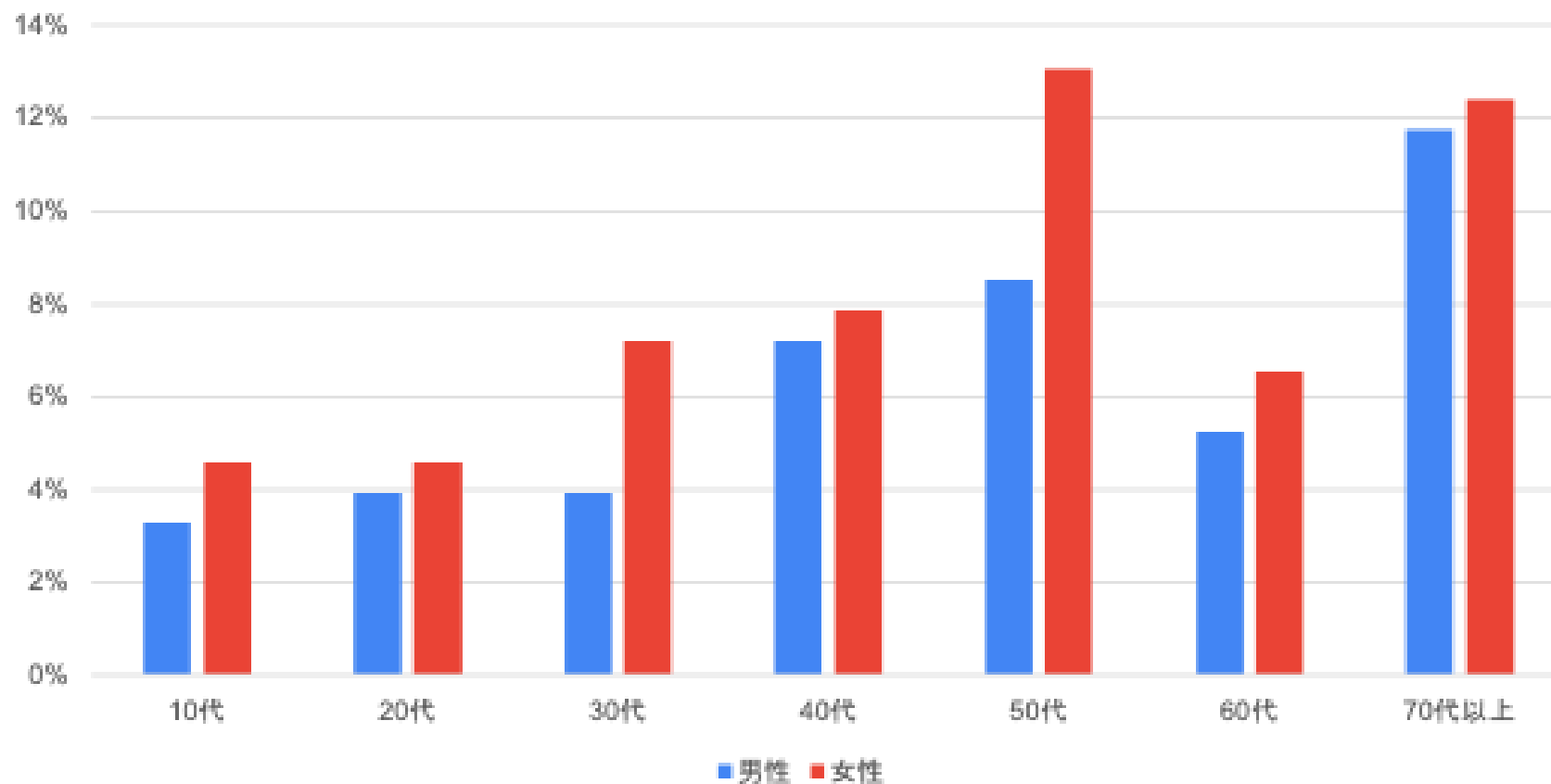
有効回答数 231件

(うち 観光客:143人 地元住民:88人)

アンケート回答者は観光客がやや多くなった。

属性

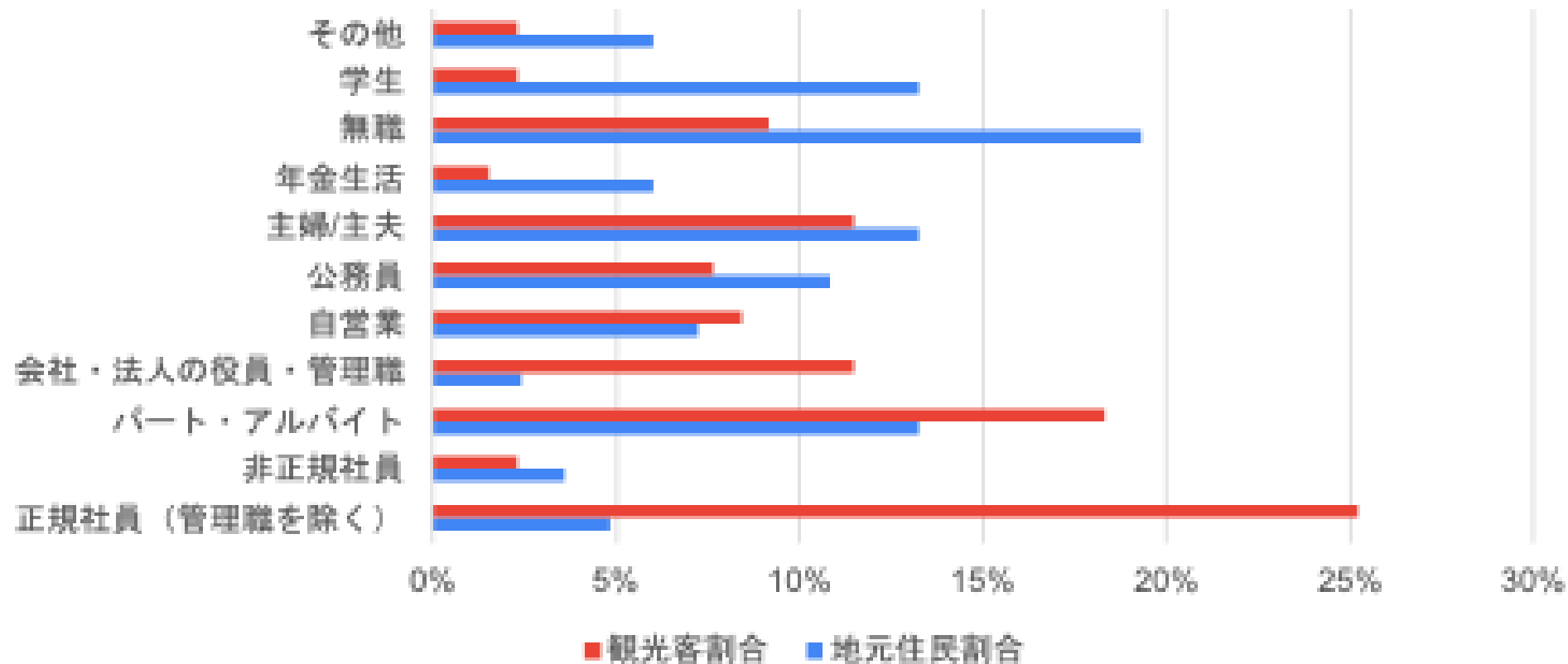
アンケート回答者は男性67人、女性86人、の計153人であり、やや女性の回答者が多い。
年齢層は40代～60代と中高年が多く、若年層（10～20代）が少ない。



(n=153)

属性情報(観光客・地元住民別の職業)

観光客で最も多いのは正規社員(管理職を除く)。続いて、パート・アルバイト、主婦/主夫、役員管理職と続く。
地元住民で最も多いのは無職。続いて、学生となる。

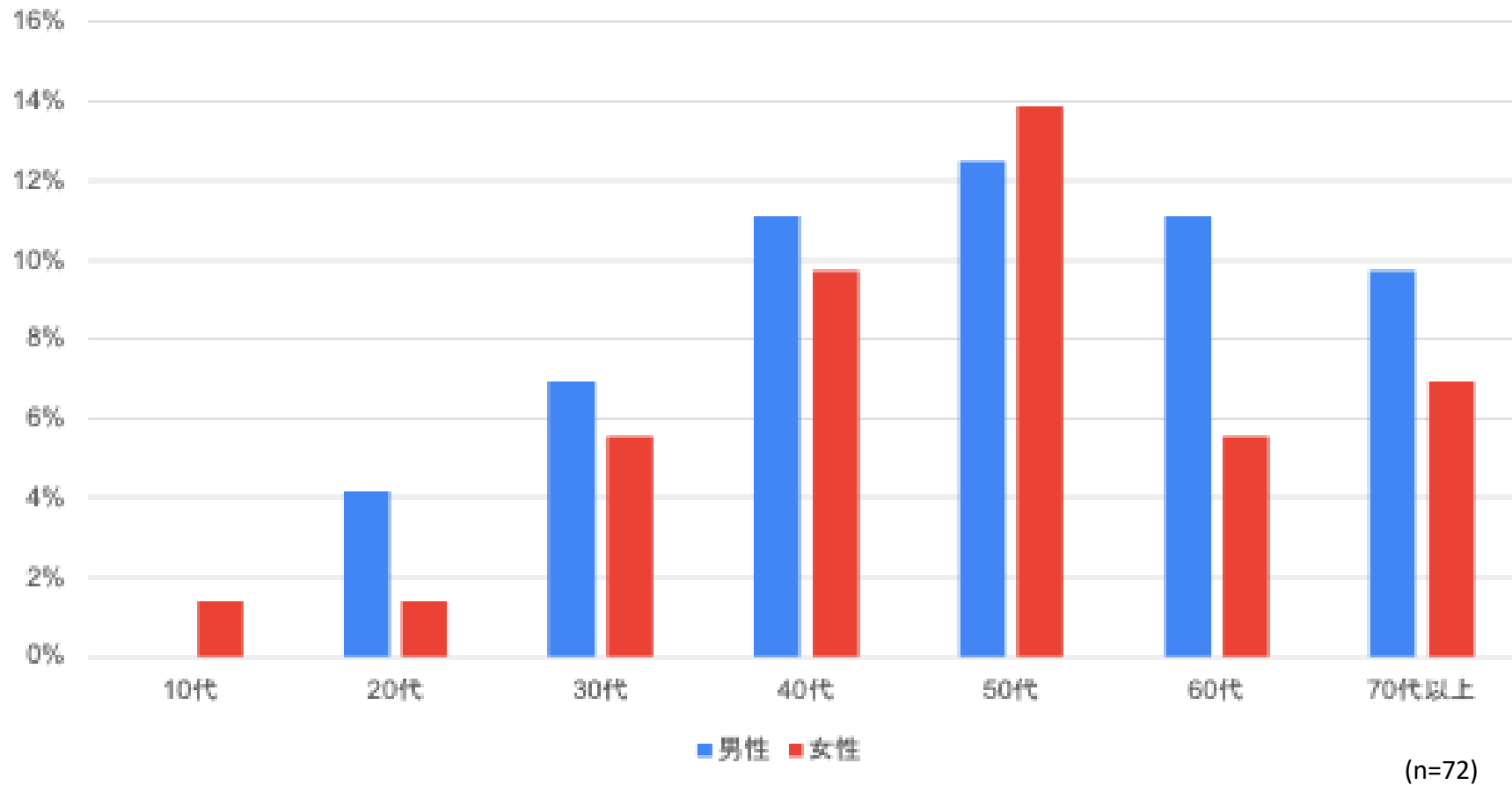


(n=214)

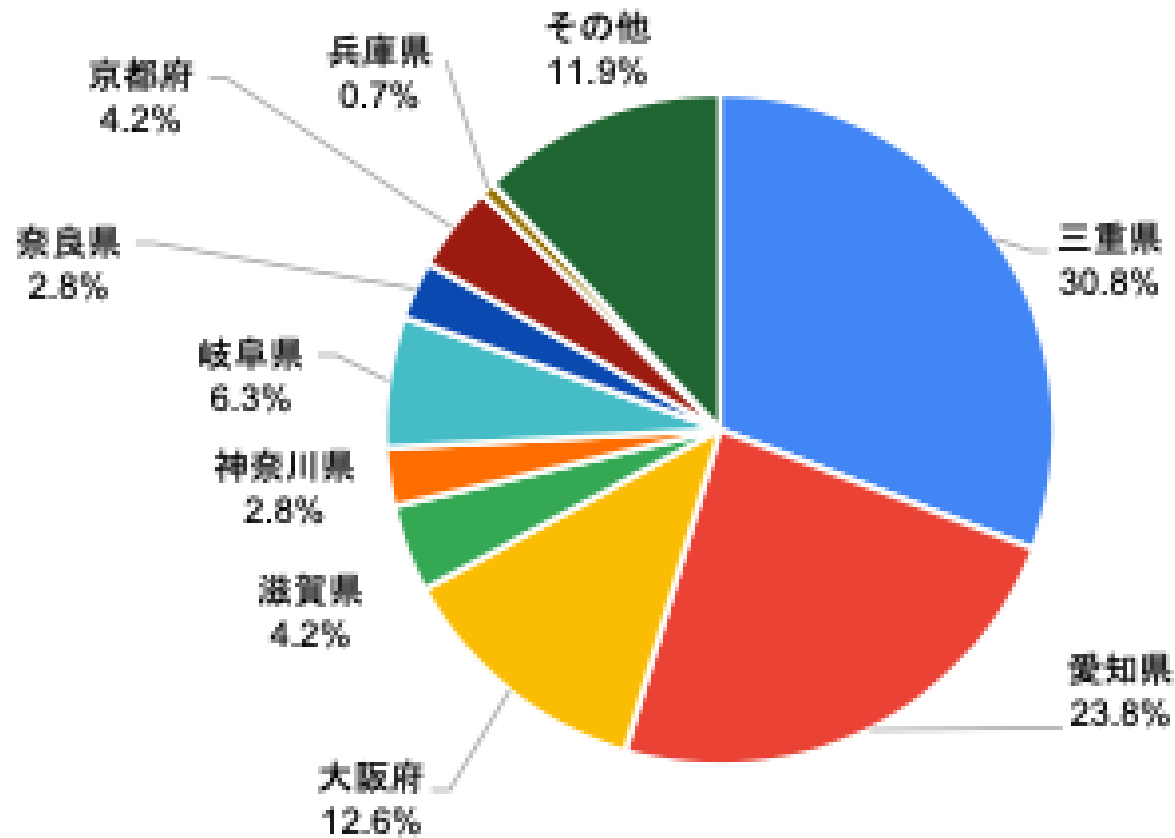
観光客のアンケート結果

観光客・属性

男性40人、女性32人であった。
年齢層では40~50代が多数を占める結果となった。



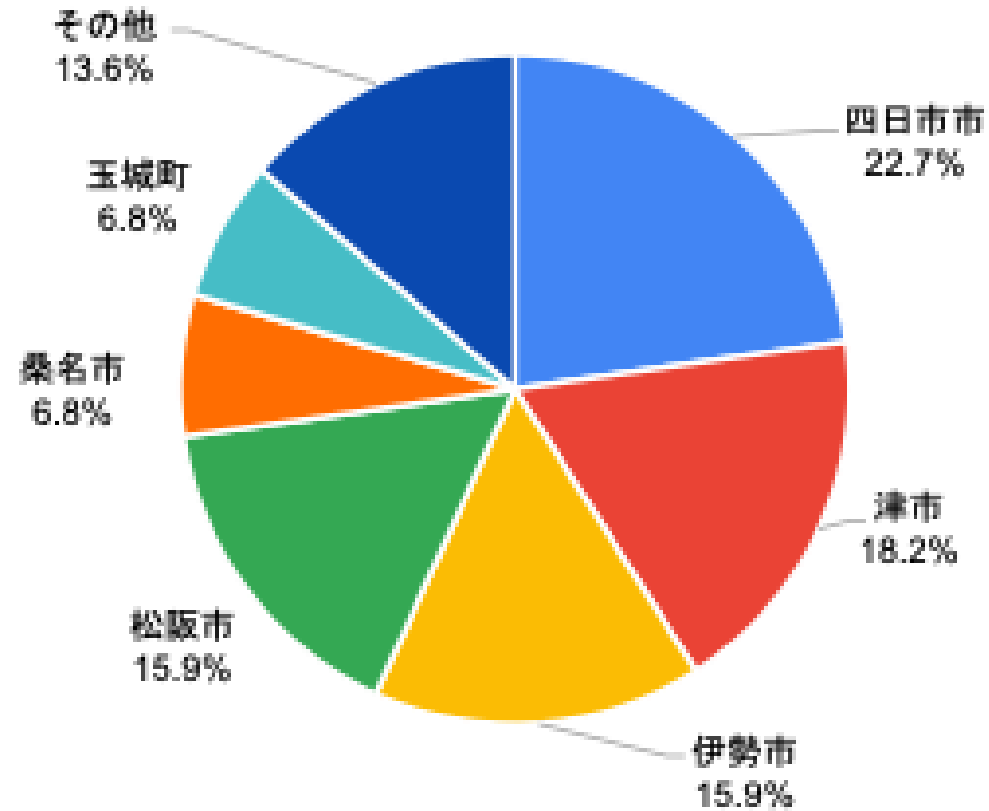
観光客の居住地



(n=143)

最も多いのは三重県内で約3割。
次点の愛知県を含めると半数を超える。
関西圏は大阪府、滋賀県、京都府が続いており、
中京圏および関西圏を中心とした集客となっている。

三重県在住観光客の居住地

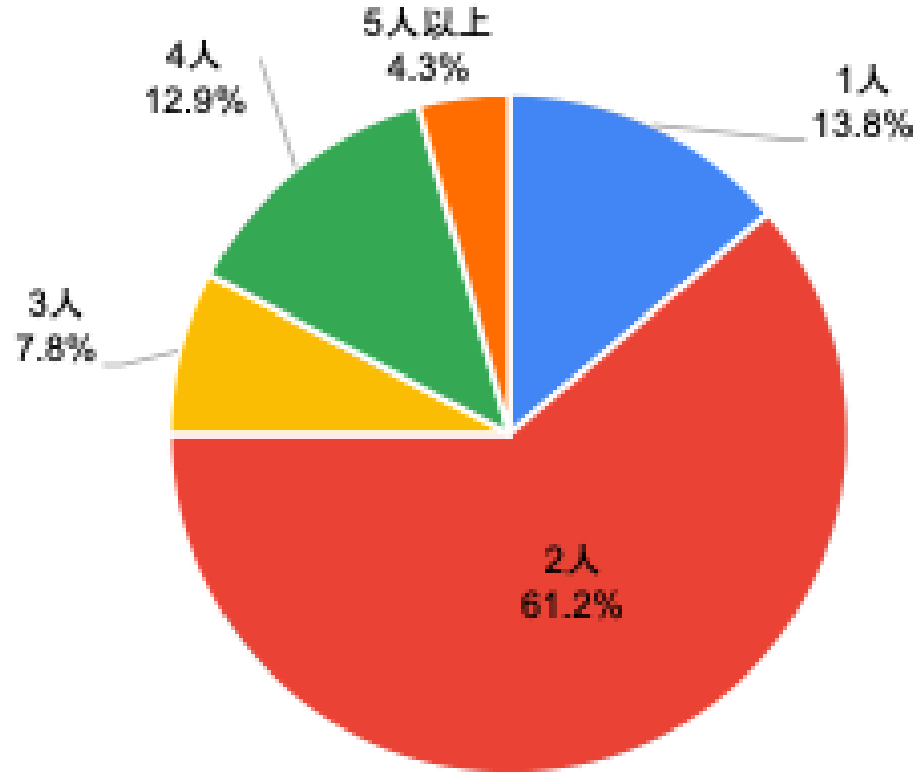


三重県内では四日市市からの来訪が最も多く、全体の約20%を占めた。

次いで津市、伊勢市が続き、その他にも東員町やいなべ市など、県内各地から幅広く来訪があった。

(n=44)

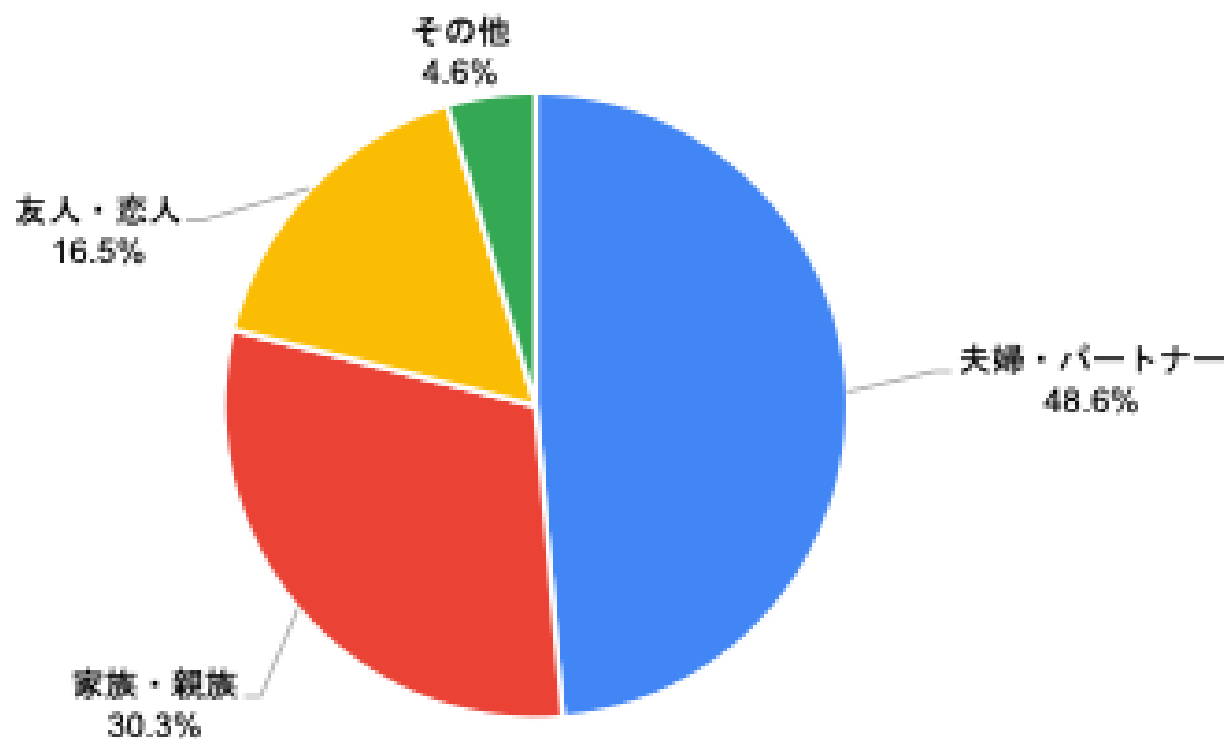
同伴人数



最多は2人で約6割を占める。
次点で1人、4人と続く。
この結果から、2人での来訪が半数以上を占めており、
比較的少人数での訪問が主流であることがうかがえる。

(n=116)

同伴構成



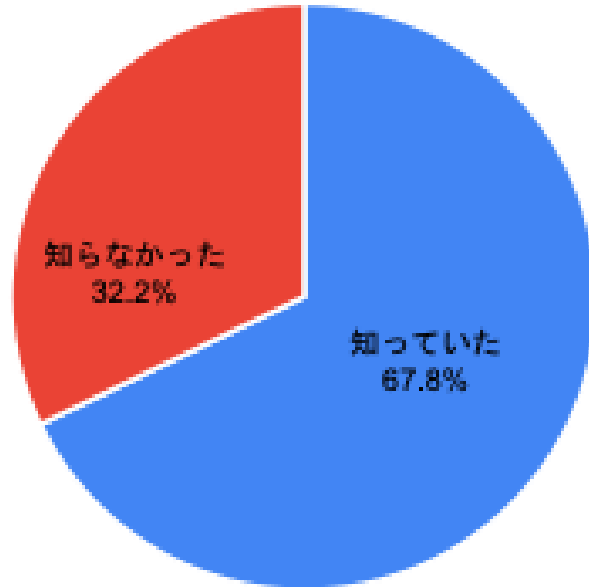
夫婦・パートナーとの来訪が最も多く、
全体の約6割を占めた。
次いで家族・親族、友人・恋人の順で多く、
親しい間柄での来訪が中心であることがわかる。

この傾向は同行人数の調査結果とも一致しており、
2人での来訪が多いことから、比較的少人数による
プライベートな旅行形態が主流であると考えられる。

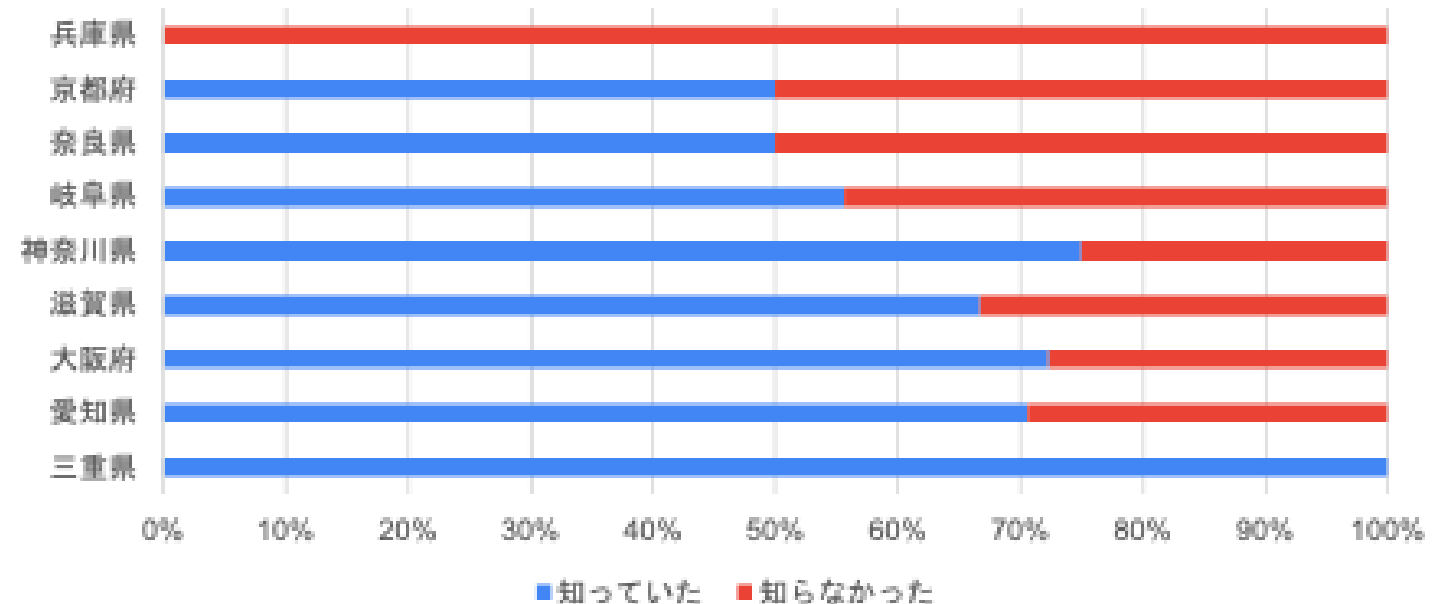
(n=109)

御浜町の認知度

全体では、御浜町を「知っていた」と回答した人が約7割を占めており、一定の認知が確保されていることがわかる。一方で、「知らなかった」と回答した人も約3割存在しており、認知が十分に行き届いていない層も一定数見られた。地域別に見ると、遠方の地域では「知らなかった」とする割合が相対的に高く、地域によって認知状況に差が見られる結果となった。

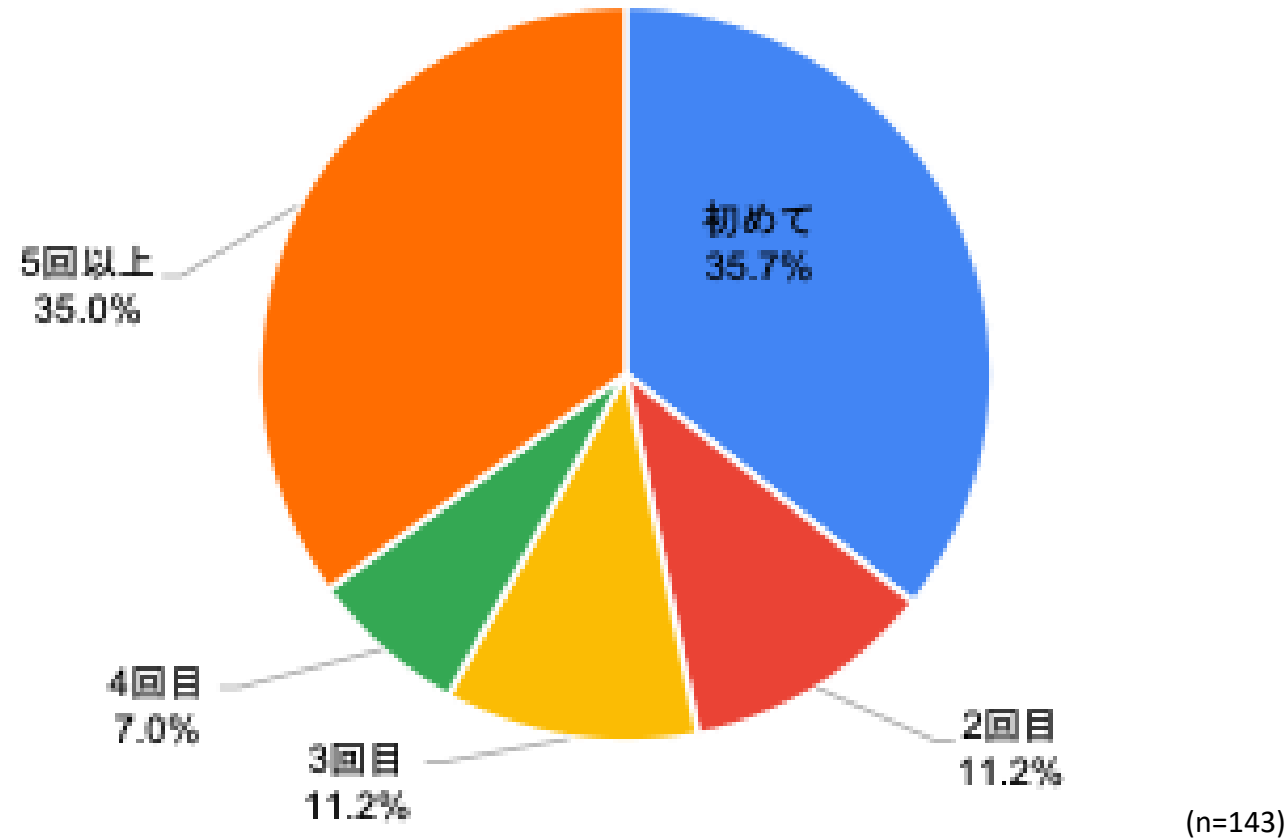


(n=143)

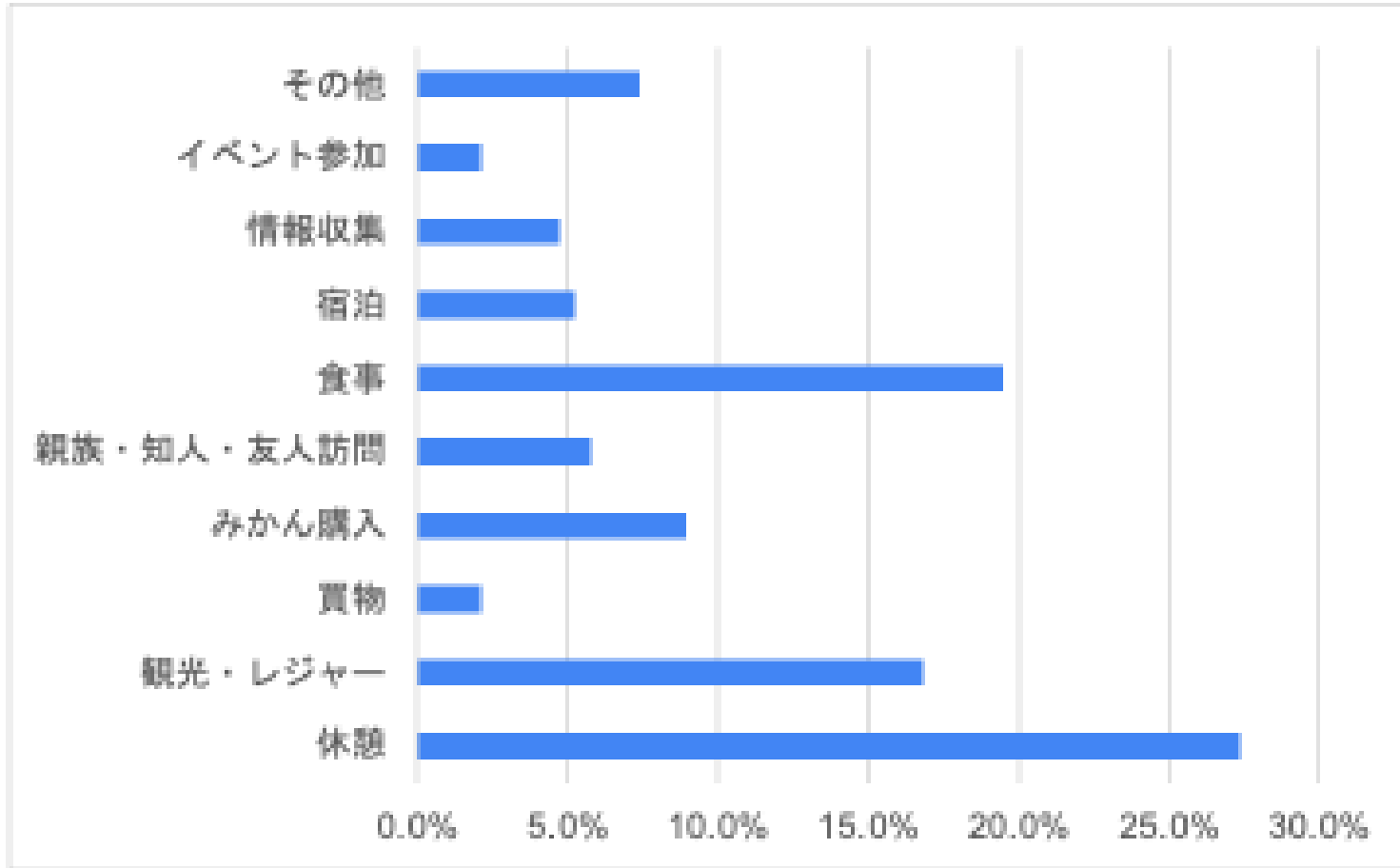


御浜町の訪問回数

初めて訪れたと回答した人が約4割を占める。
一方で、2回目以上の来訪者も6割近くにのぼっており、リピーターによる来訪が一定数存在していることがわかる。



御浜町の訪問理由



来訪目的として最も多かったのは休憩であり、全体の中で高い割合を占めた。

次いで食事や観光・レジャーが多く、御浜町が立ち寄り型の利用を中心としつつ、観光目的でも一定程度利用されていることがわかる。

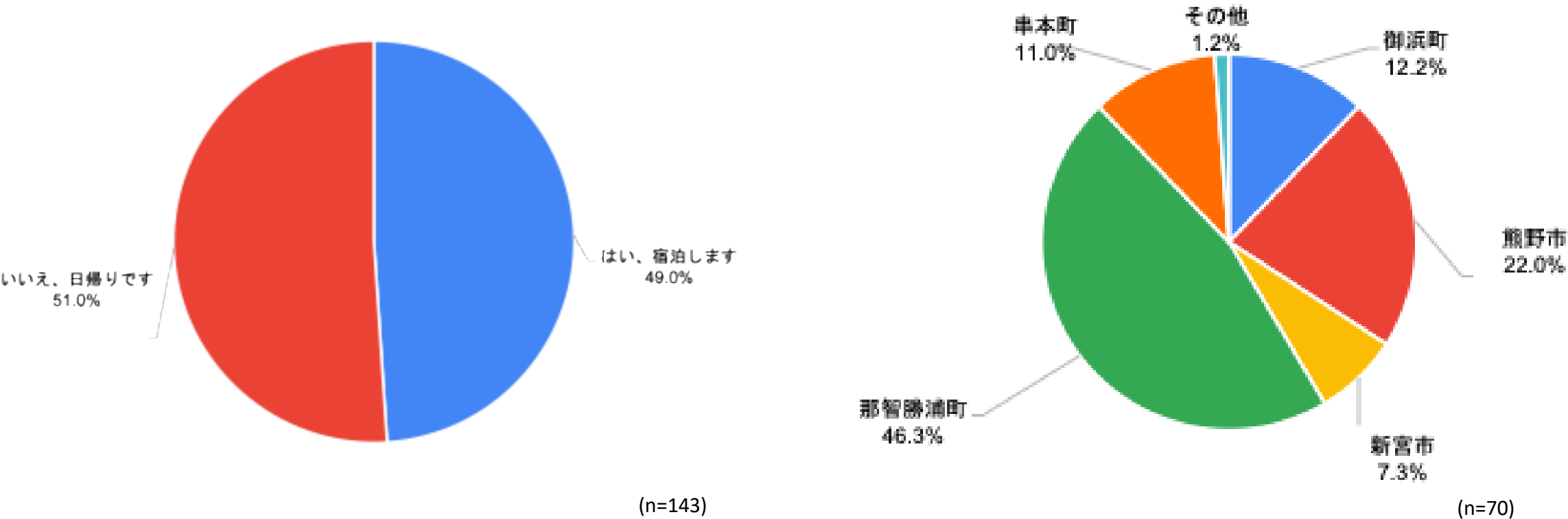
一方で、宿泊や情報収集、イベント参加などを目的とした来訪は比較的少なく、滞在型利用には至っていない傾向が見られた。

(MA=190)

宿泊の有無と主な宿泊先

宿泊を伴う来訪者は全体の半数近くを占めており、日帰り利用に限らない来訪が一定数存在していることがわかる。

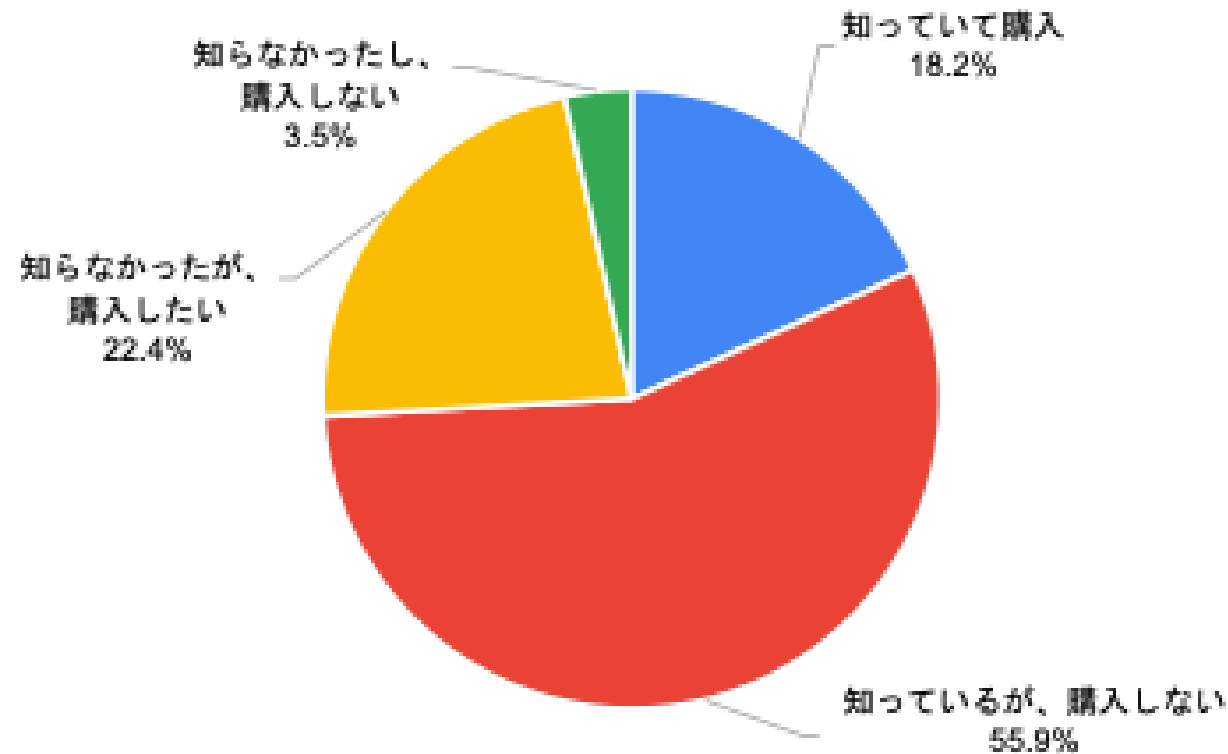
しかしながら、那智勝浦町や熊野市など町外での宿泊が多く、御浜町内での宿泊は少数にとどまっている。町内での宿泊には十分につながっておらず、滞在による消費を町内で取り込めていない状況がうかがえる。



みかんの認知度と購入意向

全体としては、「知っているが購入していない」と回答した人が最も多く、特産品については認知が必ずしも購買行動に直結していない状況が見られた。

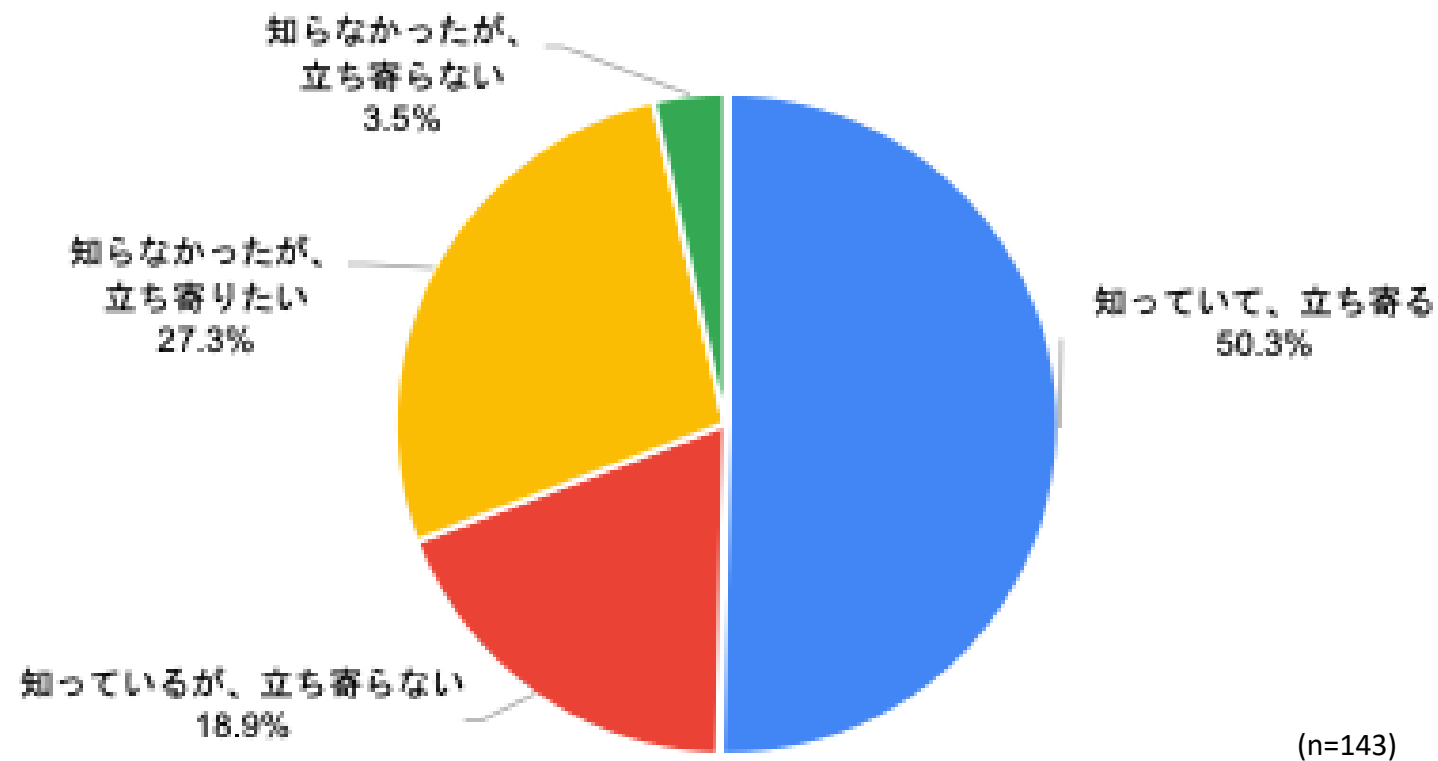
「知っていて購入した」とする層も一定数存在しており、認知から購買につながっているケースも確認された。



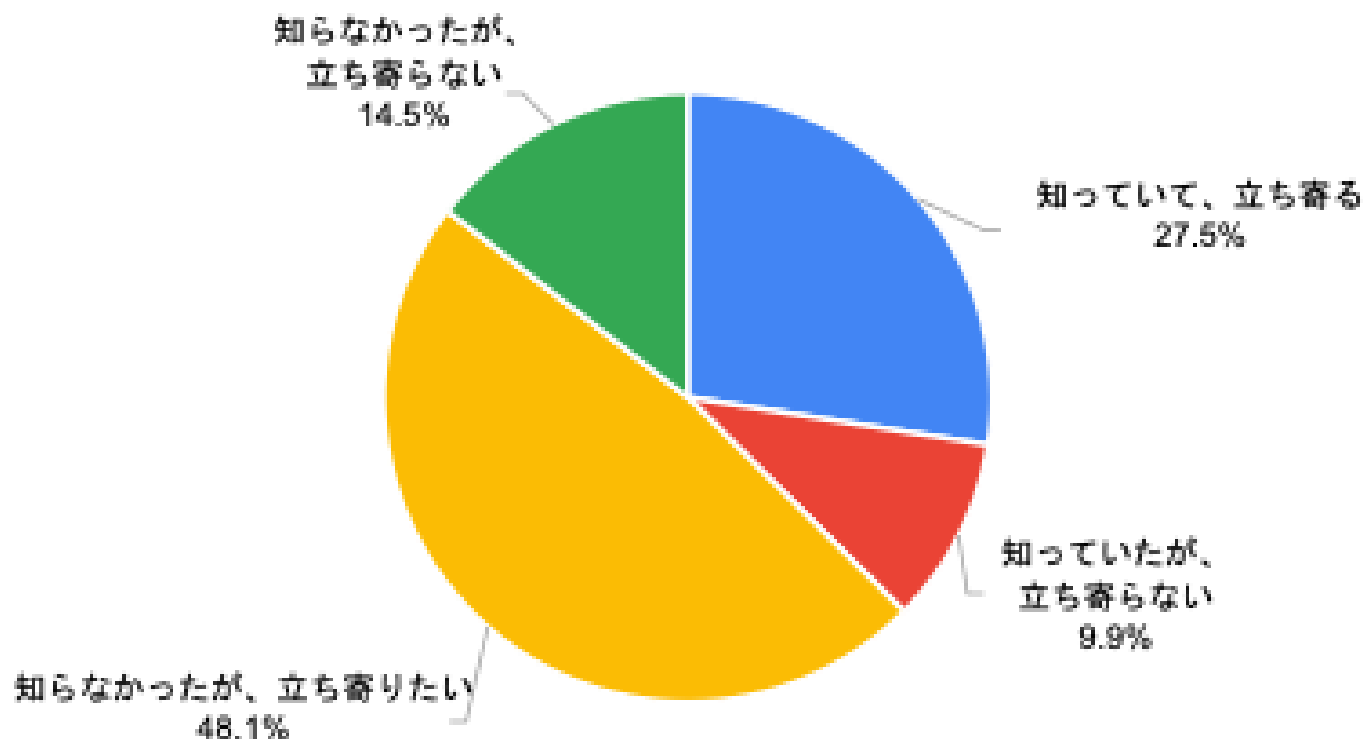
(n=143)

御浜町の「七里御浜」の認知と意向

全体では、七里御浜を「知っていて立ち寄る」と回答した人が最も多く、一定の認知と利用があることがわかる。また、「知らなかった」と回答した人も一部確認されており、七里御浜の魅力や立ち寄りポイントについては、来訪者全体に十分に伝わっていない可能性がうかがえる。



観光案内所の認知度



(n=131)

観光案内所については、「知らなかった」と回答した人が最も多く、全体の半数近くを占めている。

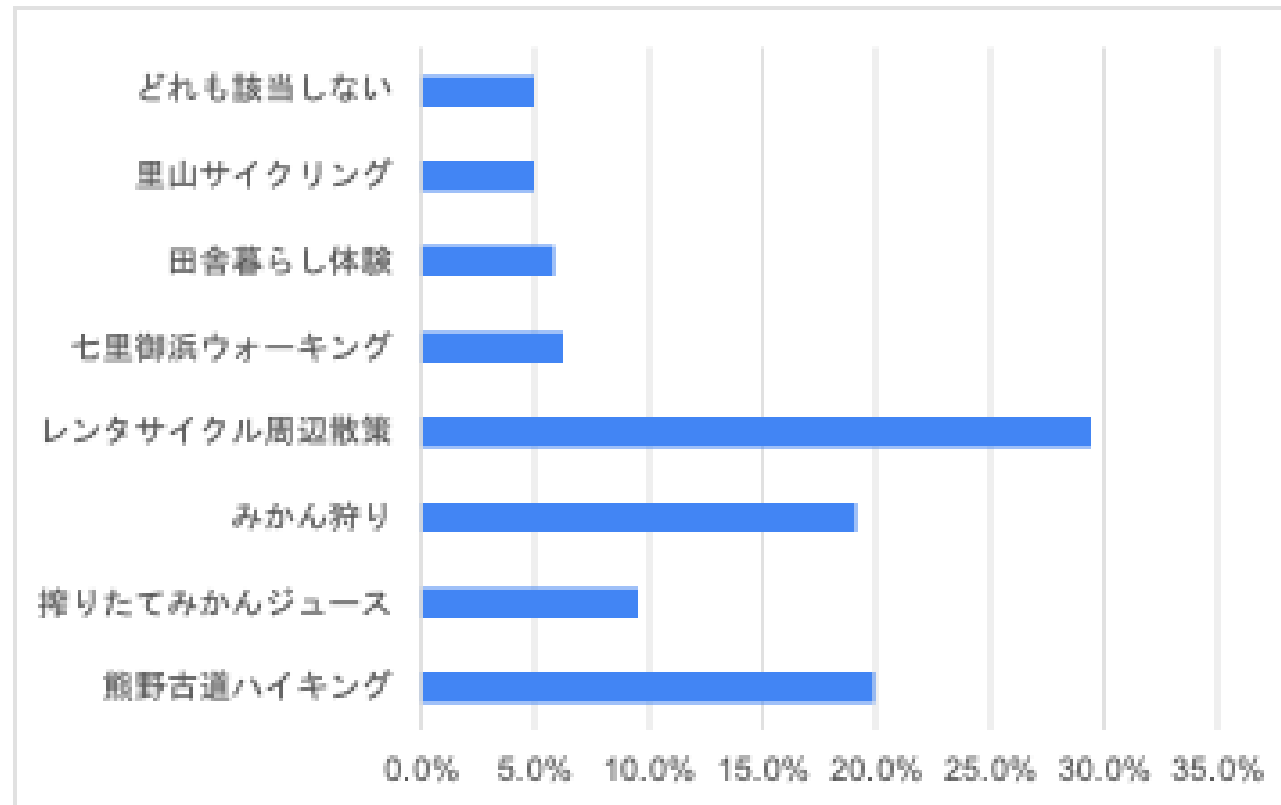
一方で、「立ち寄った」または「立ち寄りたい」とする回答も一定数見られ、観光情報を求めるニーズが存在していることがわかる。

また、「知っているが立ち寄らない」とする層も確認されており、観光案内所の存在や役割が十分に伝わっていない可能性がうかがえる。

特に、初訪問者や遠方からの来訪者に対しては、観光案内所の機能や利便性を分かりやすく示すことが重要であると考えられる。

御浜町で興味あるアクティビティ

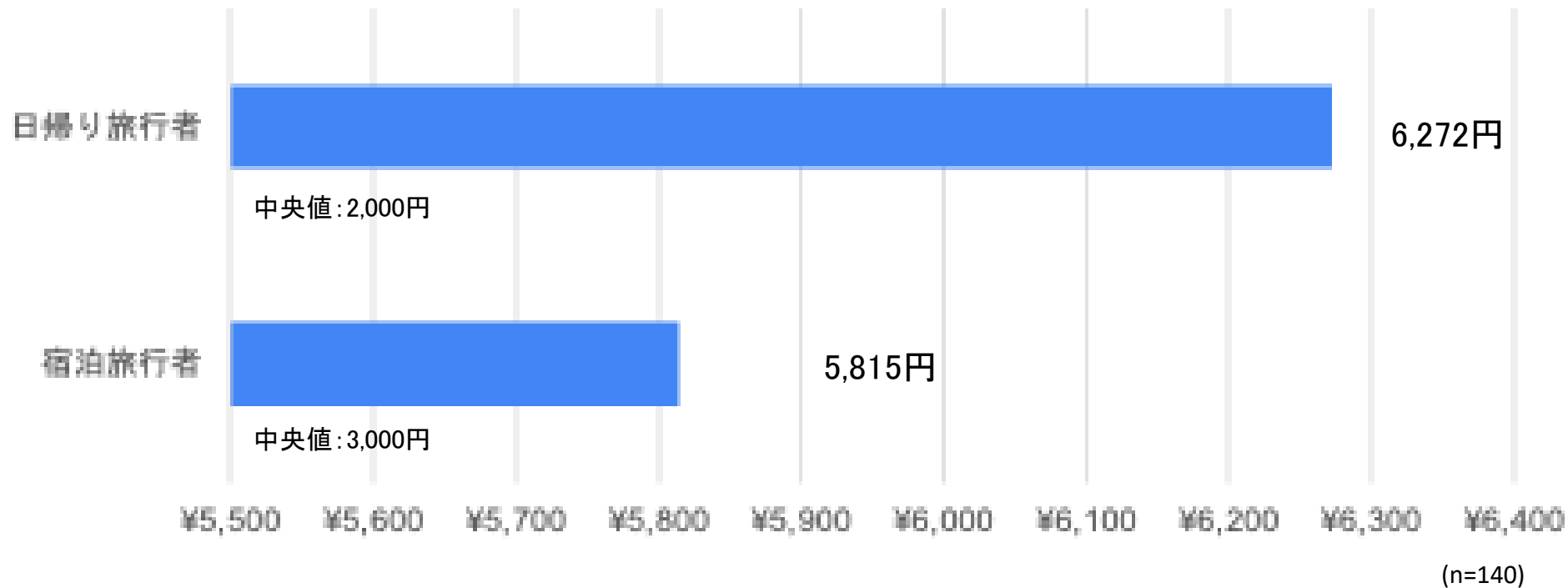
レンタサイクル周辺散策への関心が最も高く、熊野古道ハイキングやみかん狩りなど、昨年同様自然・地域資源を活かした体験が選ばれている。



(MA=241)

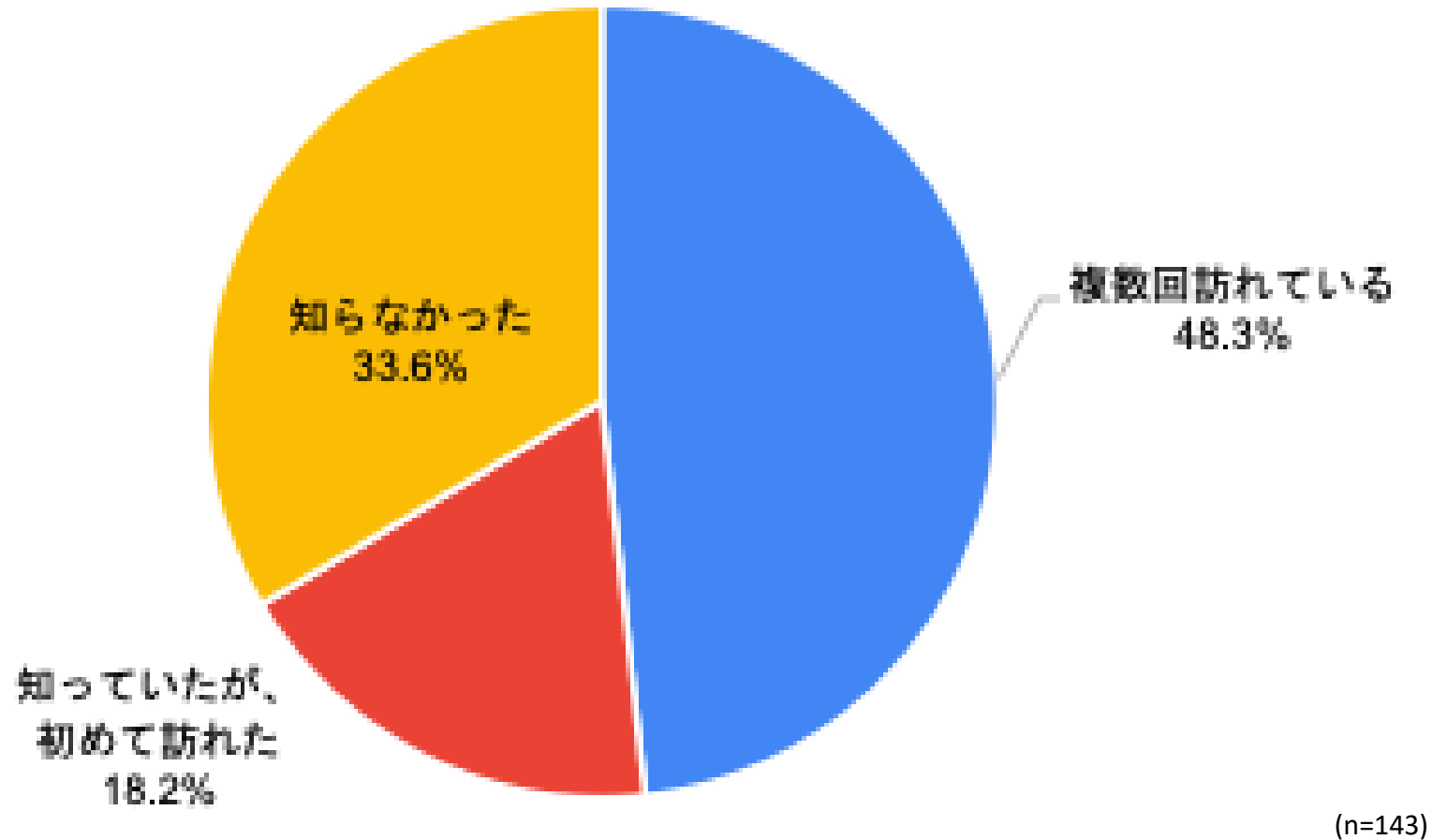
観光消費額

日帰り旅行者の平均は6,272円、宿泊旅行者は5,815円との結果が出た。

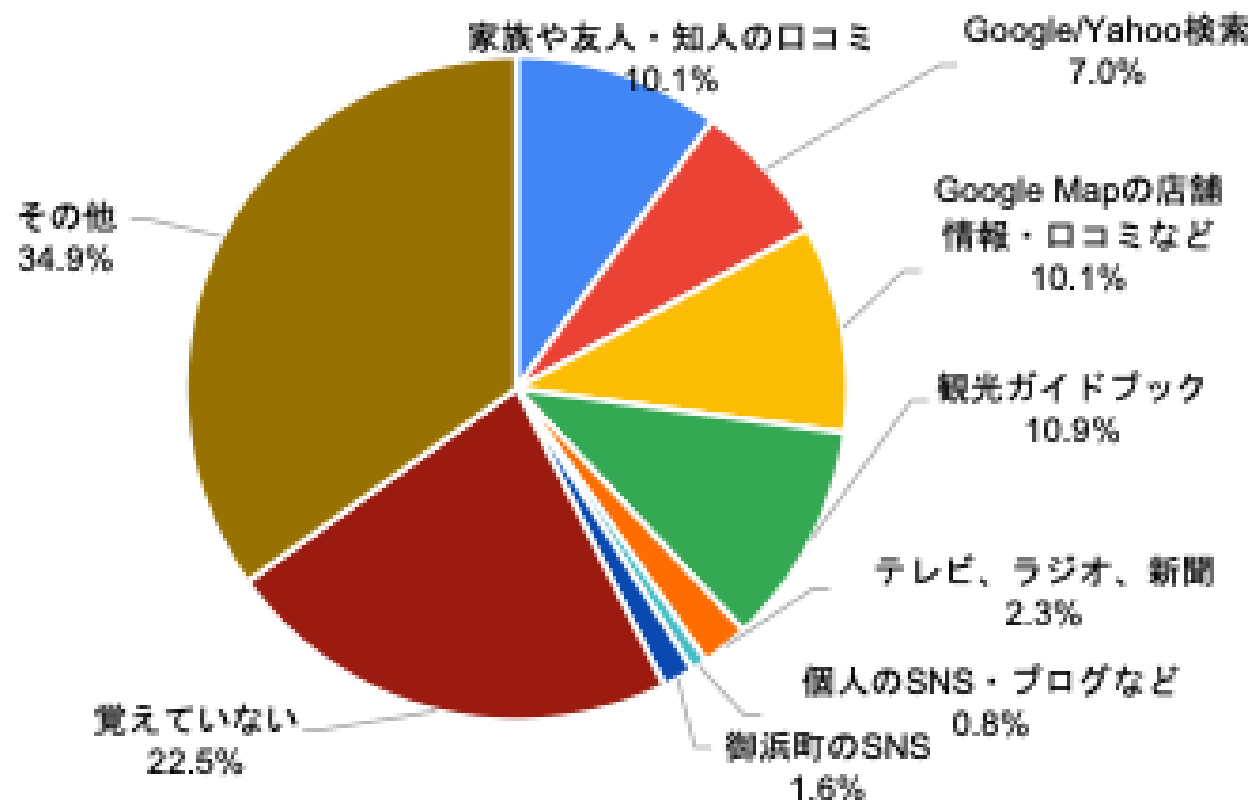


「道の駅 パーク七里御浜」の認知度と訪問回数

利用者は道の駅のリピーターが約半数を占めていた。しかし、未認知層も一定数存在している。



「道の駅 パーク七里御浜」の認知場所



情報入手経路は多様であり、「その他」やインターネット検索が多くを占めた。

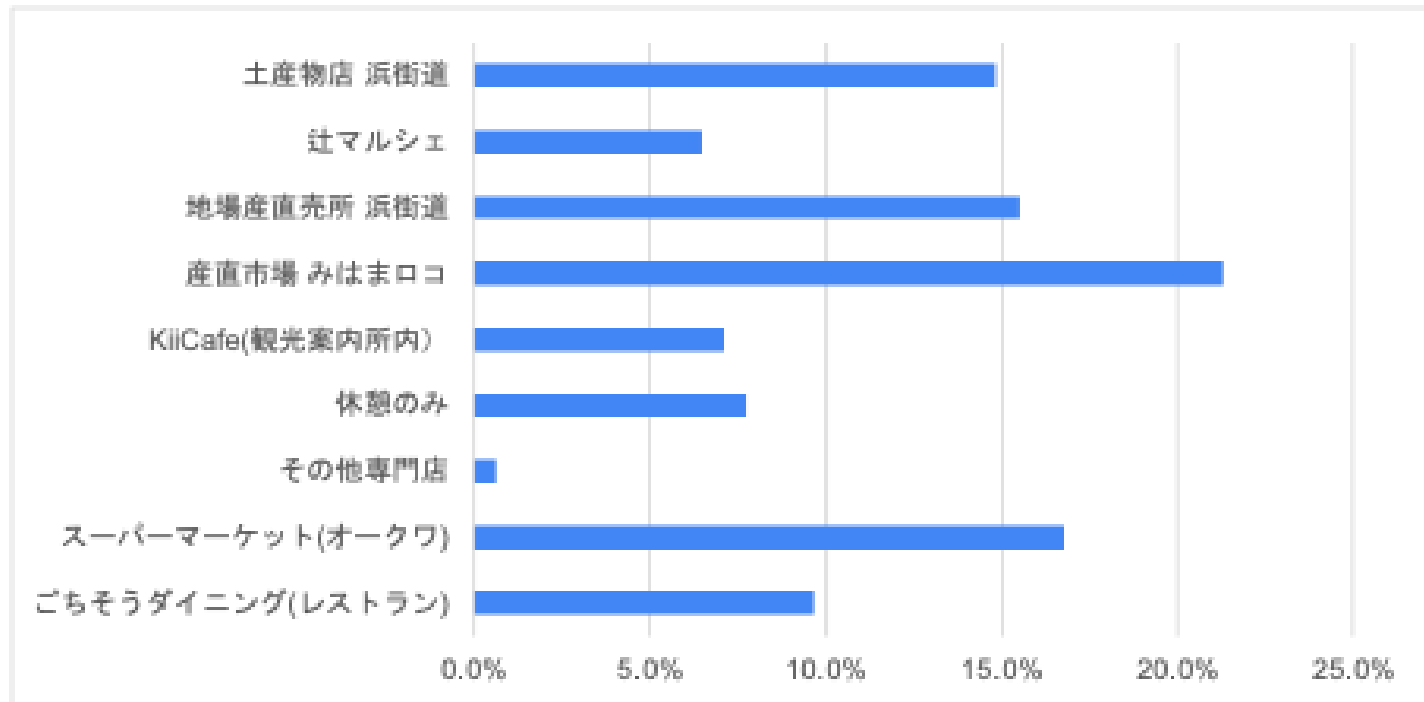
SNSをきっかけとする来訪は比較的少数であった。

(n=104)

「道の駅 パーク七里御浜」内で立ち寄り先(複数回答)

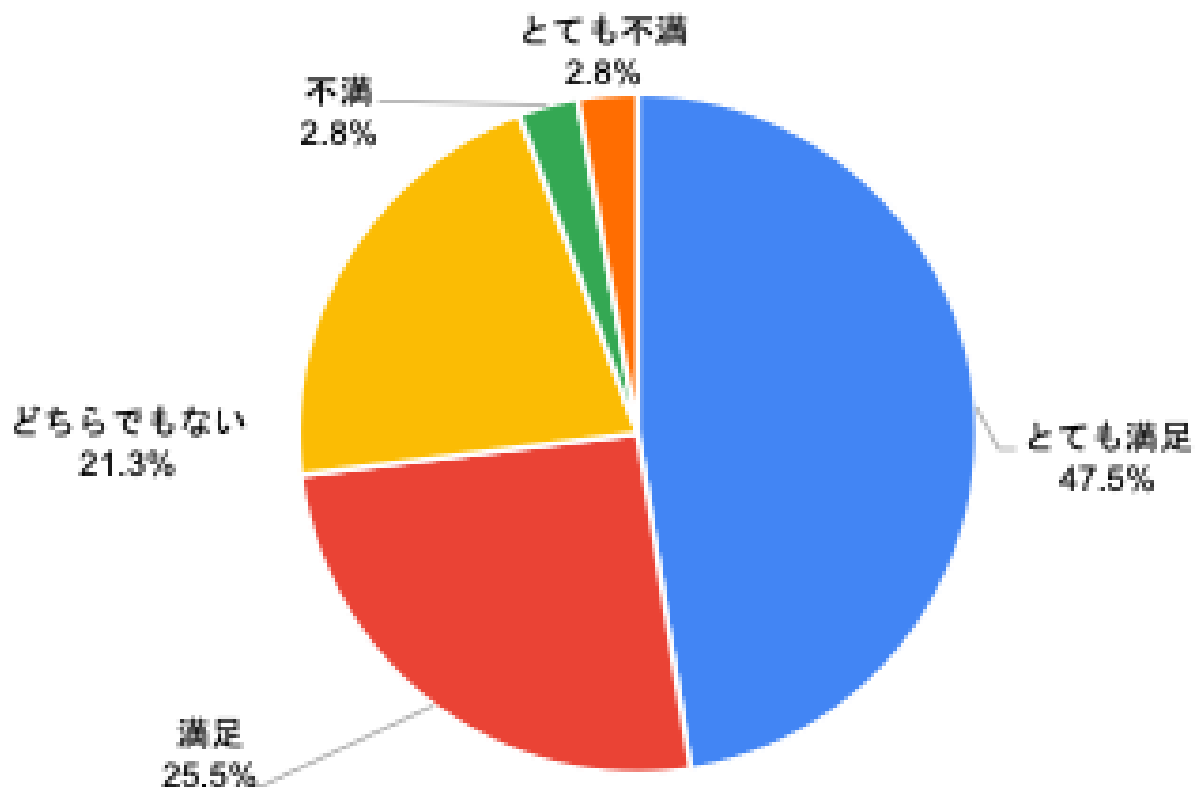
立ち寄り場所としては、「地場産直売所 浜街道」や「土産物店 浜街道」が多く、町内の直売・物販施設への立ち寄りが中心となっていることがわかる。

一方で、「KiiCafe(観光案内所内)」や「辻マルシェ」などの利用は比較的少なく、立ち寄り場所には一定の偏りが見られる。このことから、主要な直売所や土産物店に利用が集中する一方で、その他施設への誘導には工夫の余地があると考えられる。



(MA=155)

「道の駅 パーク七里御浜」の満足度



(n=141)

「満足」「やや満足」と回答した人が全体の約4分の3を占めており、概ね高い評価を得ている。現在の評価を維持しつつ、利用環境やサービス内容の工夫により、さらなる満足度向上が期待される。

～主な声～

- ・景色がいい
- ・美味しいものがある
- ・トイレが綺麗
- ・みかんの種類が豊富
- ・お土産たくさんある
- ・広くていい
- ・駐車場が停めやすい
- ・人が親切

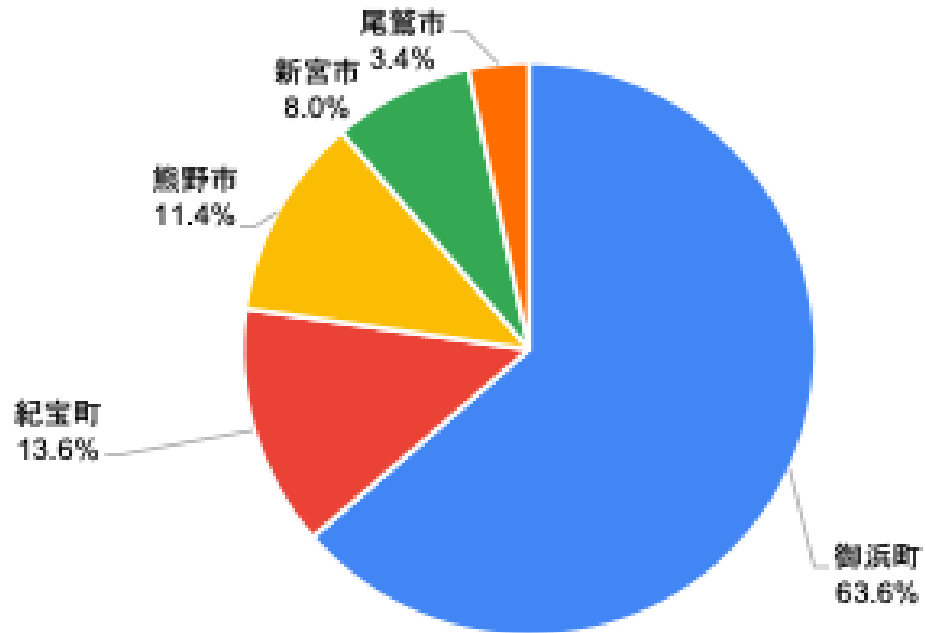
まとめ

- ・御浜町を訪れる観光客は、今年度もリピーターが多く、特に三重県内や愛知県からの来訪が目立った。同行者は「夫婦・パートナー」が最も多く、2人での来訪が中心となっている。一方、遠方地域からの来訪者では初訪問者の割合が高い傾向が見られた。
- ・特産品については認知度が高く、「知っている」と回答した人が多かったが、「知っているが購入していない」とする層も一定数存在しており、**認知が必ずしも購買行動に直結していない状況が確認**された。
- ・道の駅については、満足度が高く、回答者の約4分の3が「満足」「やや満足」と回答した。立ち寄り場所としては、地場産の直売所や土産物店への利用が多く、買い物や休憩の場として一定の評価を得ていることがうかがえる。
- ・興味のあるアクティビティでは、「レンタサイクル周遊散策」や「熊野古道ハイキング」、「みかん狩り」などが上位に挙げられ、自然や地域資源を活かした**体験型観光への関心が高い**ことが示された。
- ・観光案内所については、半数近くがその存在を知らないと回答しており、「知らなかったため立ち寄らない」「知っていても立ち寄らない」とする層が一定数見られた。観光情報を求める意向はあるものの、十分に活用されていない状況がうかがえる。
- ・宿泊を伴う来訪者は半数以上を占めていたが、宿泊先は那智勝浦町や熊野市など町外が中心であり、**町内宿泊にはつながっていない現状**が確認された。
- ・情報入手経路としては「インターネット検索」が多く、情報源は分散している。情報接触の経路が意識されにくくなっている可能性が示唆された。

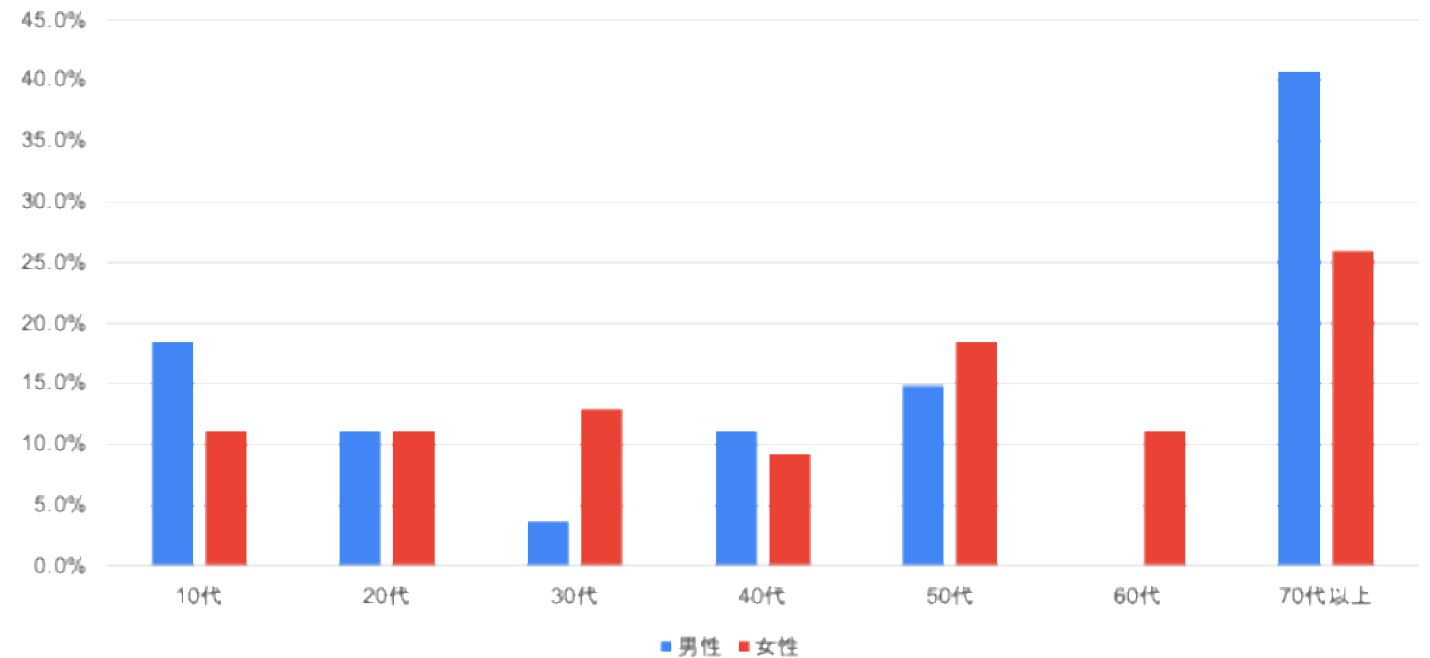
地元住民のアンケート結果

属性情報(居住地・性別・年代)

地元を除くと隣接する紀宝町、熊野市からの訪問が多い。
また、年齢層は70代が最も多い。

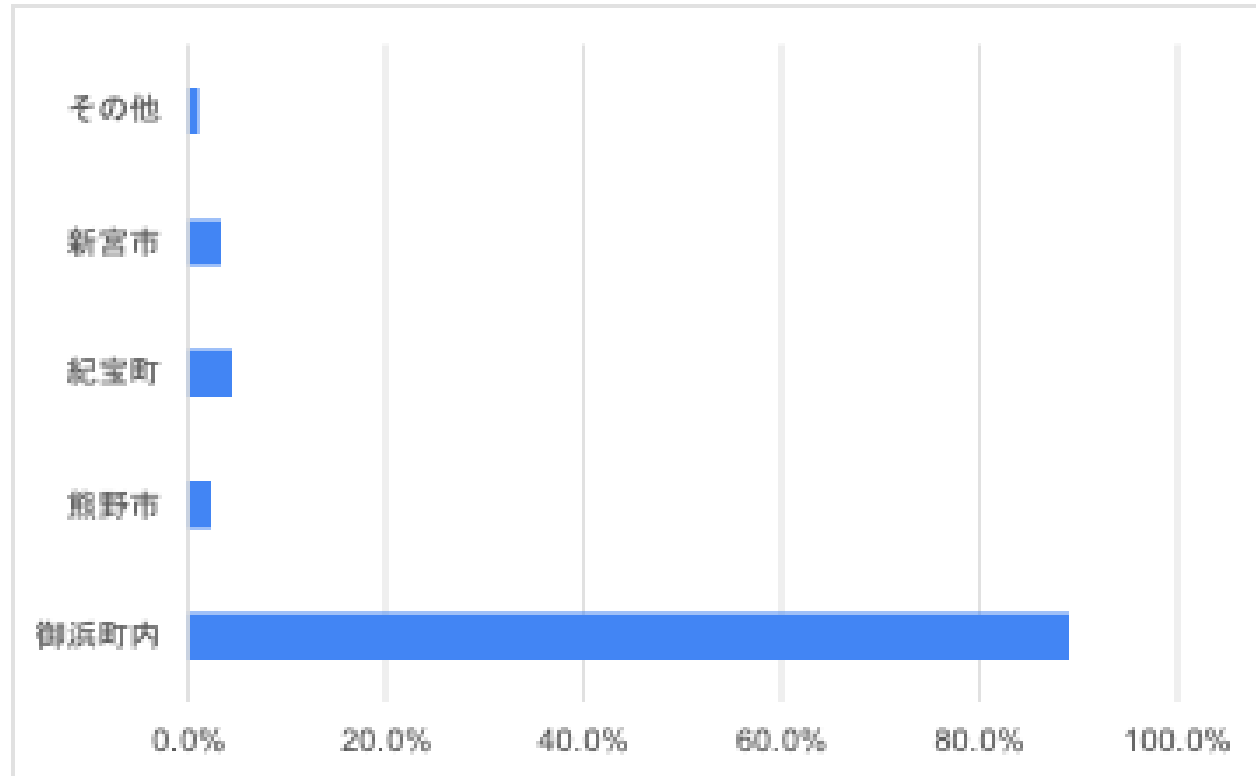


(n=88)



(n=81)

主な訪問先

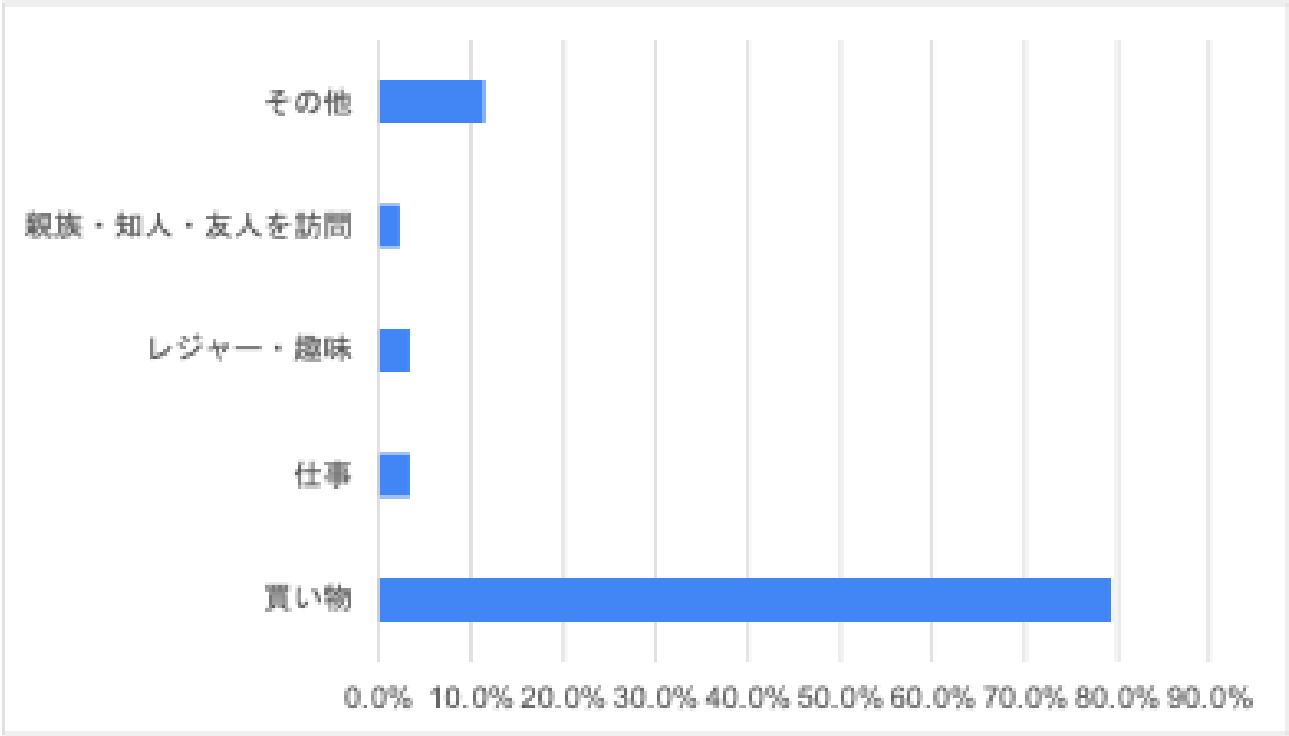


訪問先としては御浜町内が最も多い。

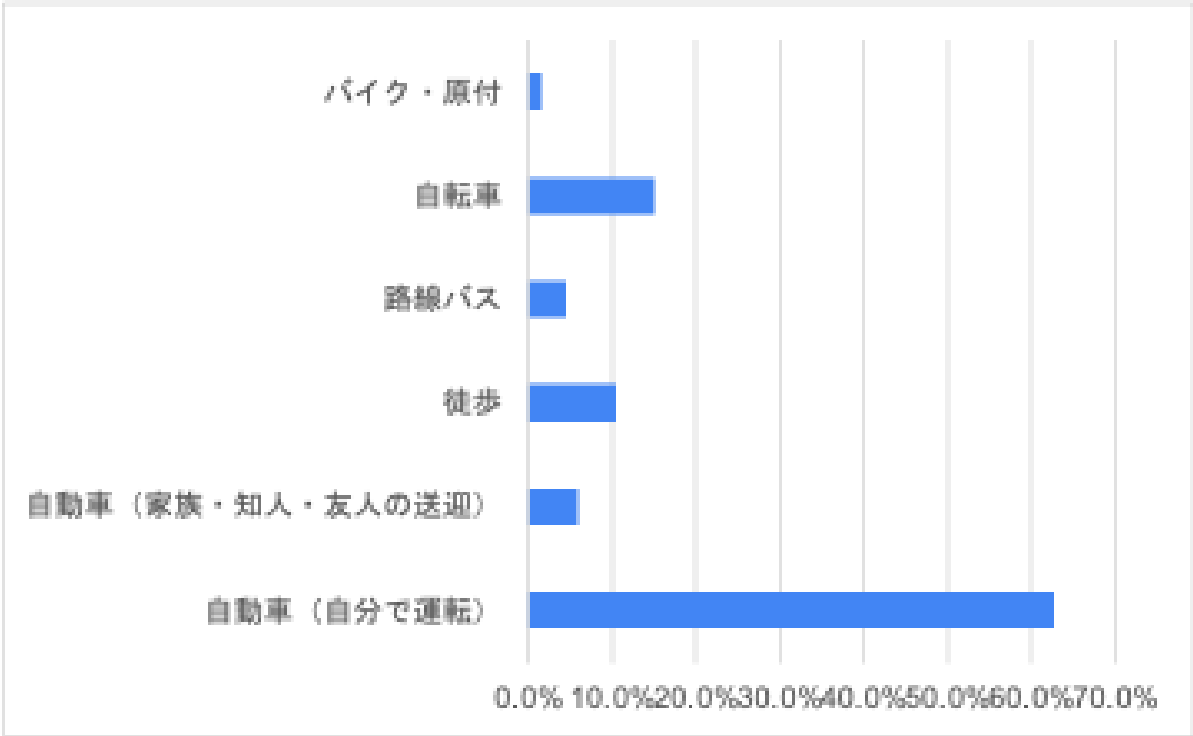
(MA=91)

外出の目的と交通手段

多くの人が買物での外出であり、自動車での来訪が半数以上を占めている。
自転車や公共交通機関を利用した来訪も見られる。



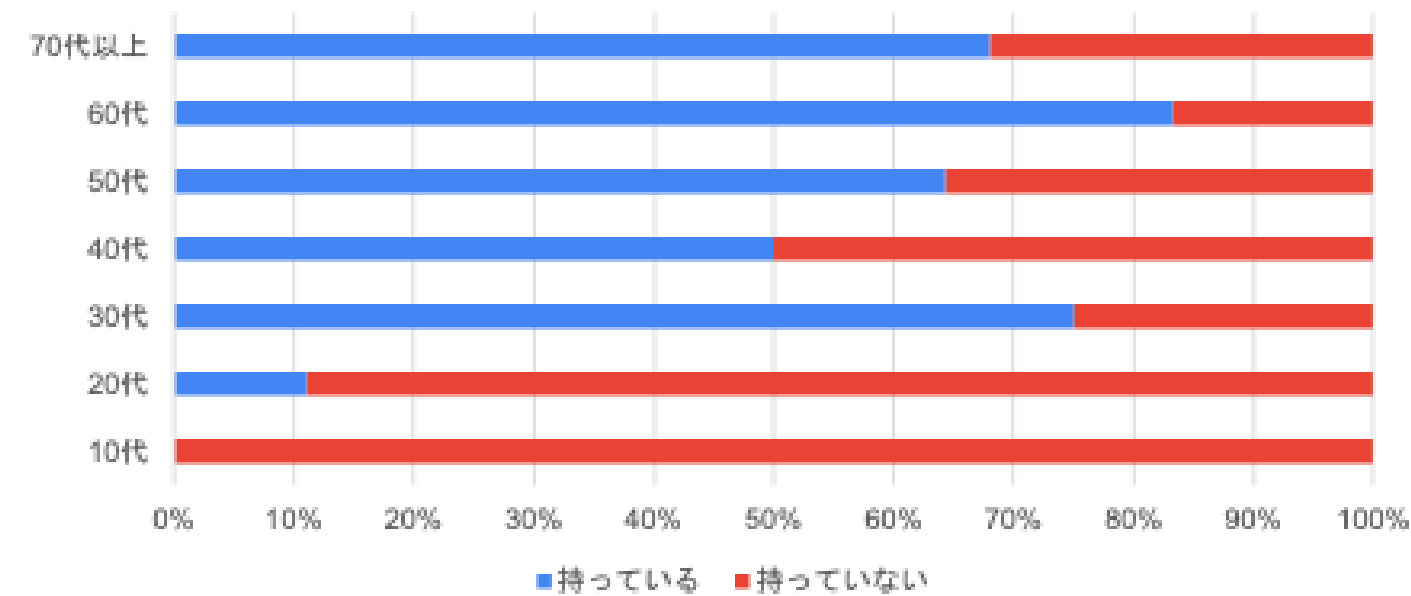
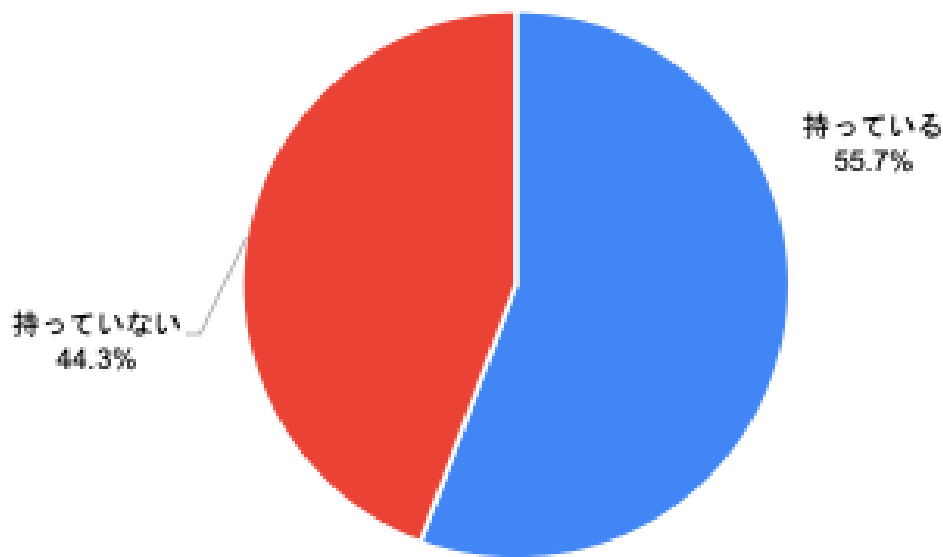
(MA=87)



(MA=67)

Kiiカードの保有有無

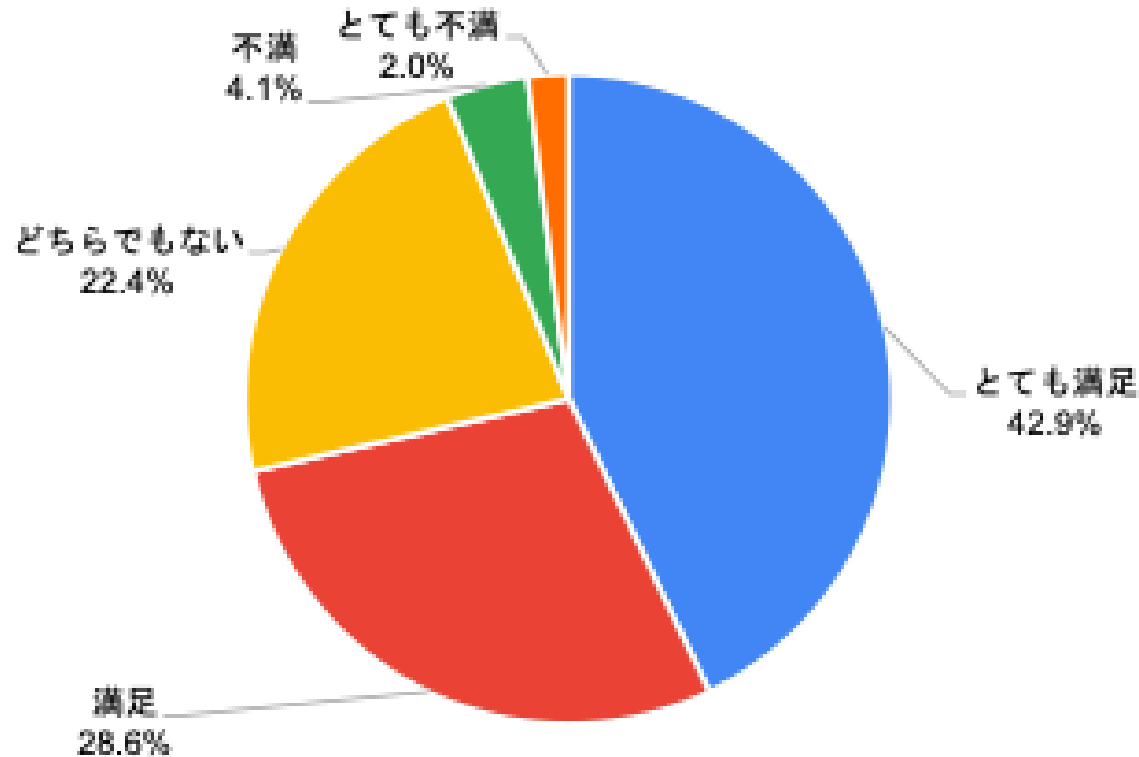
地元住民の約半数がカードを保有。30代以降の保有が目立つ。



(n=88)

(n=88)

Kiiカードの満足度



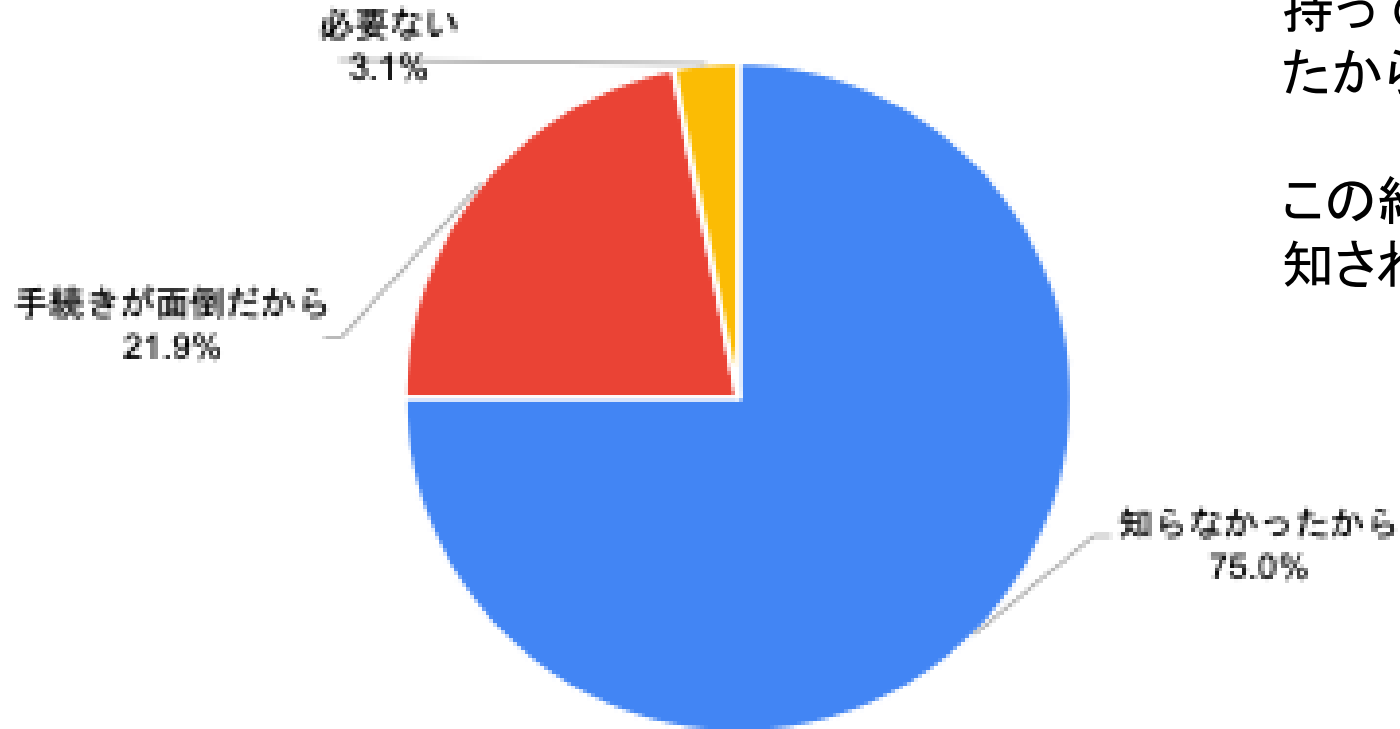
(n=81)

7割近くは満足している。
しかし、どちらでもないと答えた層が2割程度存在している。

～主な声～

- ・カードが使える店舗を増やして欲しい
（飲食店が欲しいという意見が多く上がった）
- ・レシートなどでポイントを確認しやすくしてほしい
- ・ポイントを貯めやすくしてほしい
- ・ポイント率を上げてほしい
- ・有効期限をなくしてほしい

Kiiカードを持っていない理由



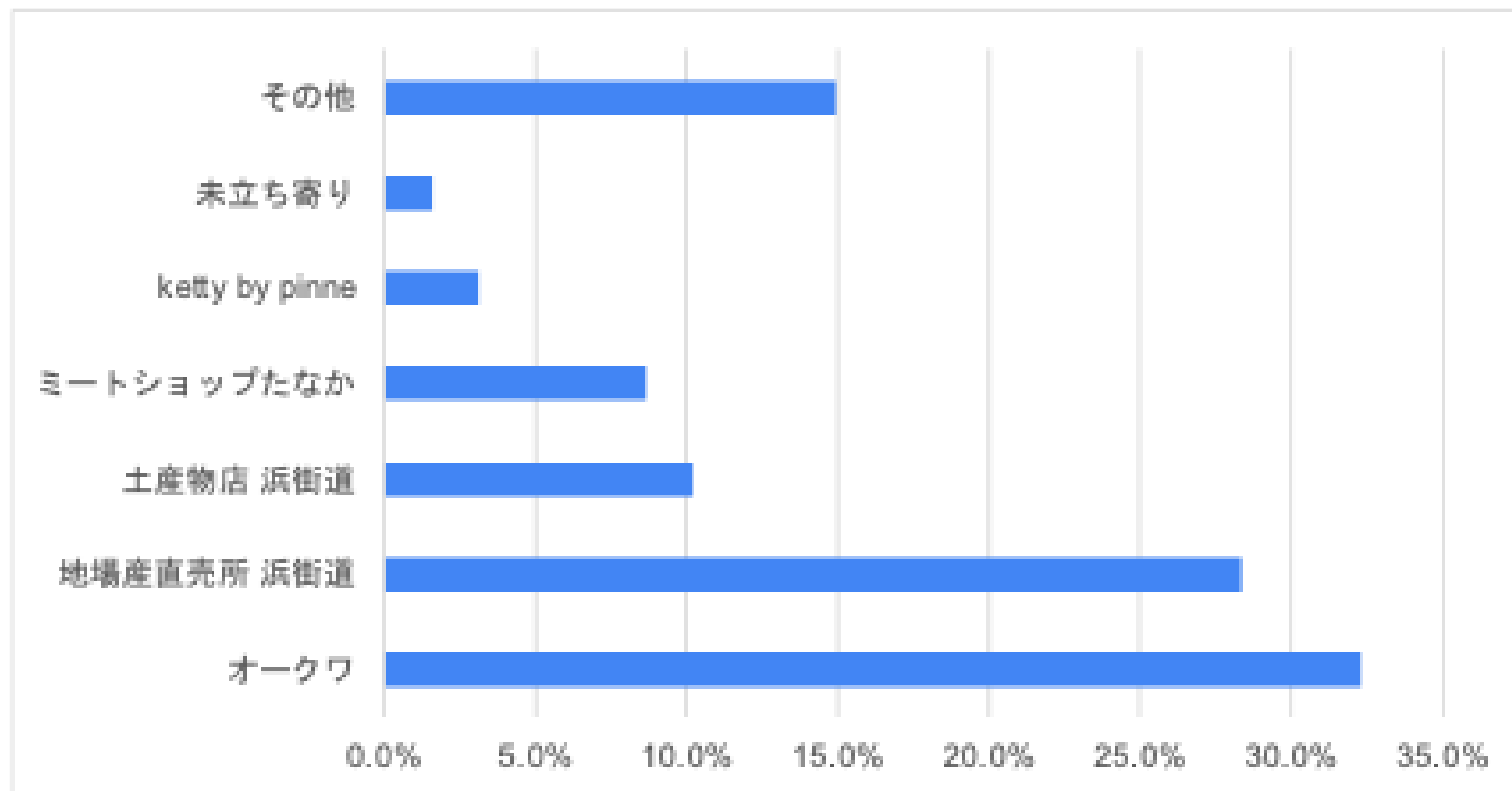
持っていない理由として最も多かったのが「知らなかったから」であった。

この結果からは、キイカードの存在や役割が十分に認知されていないという状況がうかがえる。

(N=32)

「道の駅 パーク七里御浜(ピネ)」内での立ち寄り場所

最も多いのがスーパーマーケットのオークワ。続いて、地場産直売所、土産物店と続く。

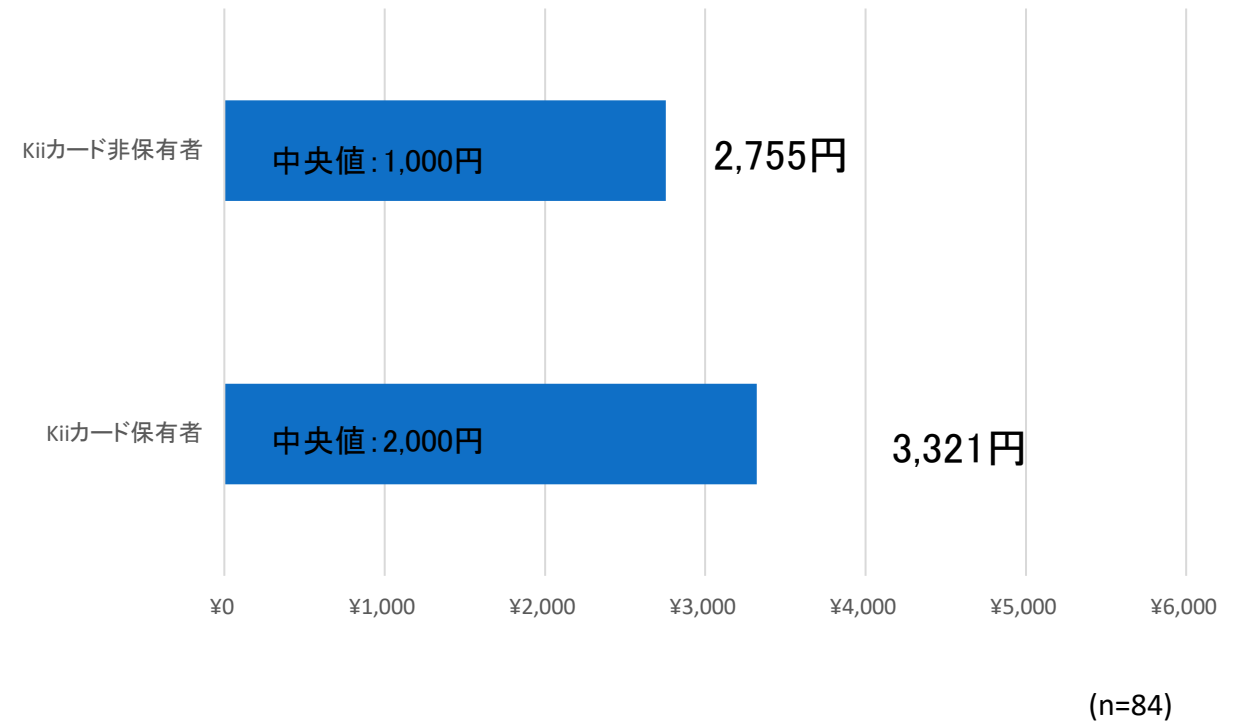
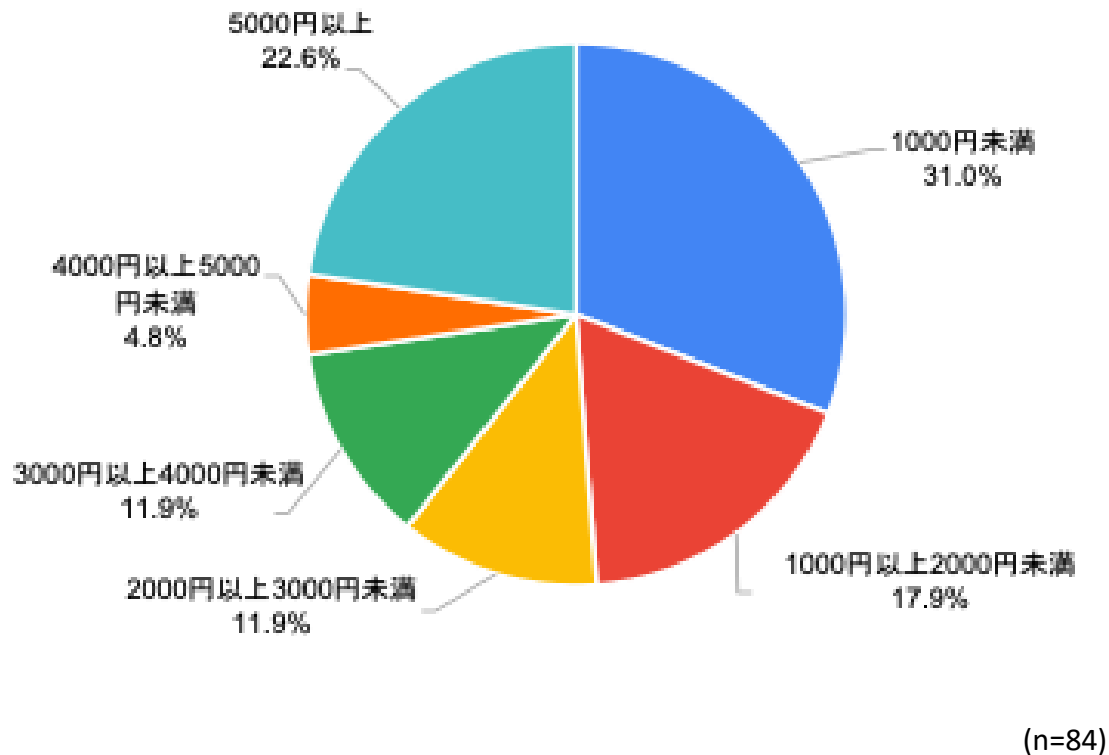


(MA=127)

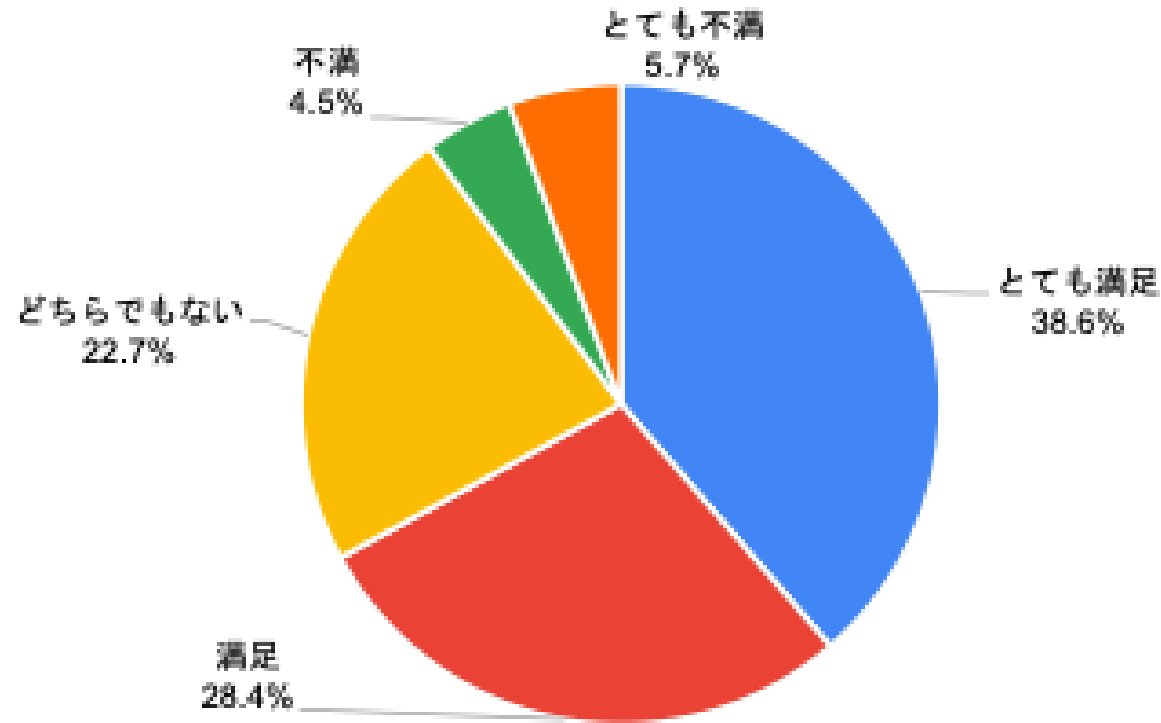
「道の駅 パーク七里御浜(ピネ)」内での購入額

Kiiカード保有者は平均購入額は3,321円、中央値は2,000円と、非保有者の平均購入額の2,755円、中央値1,000円と比べいずれも高い傾向がみられた。

この差は、カード保有者が地域での消費に対して積極的であることを示唆している。特に中央値に1,000円の差があることから、一部の高額購入者の影響だけでなく、保有者全体にわたって消費額が底上げされていることがうかがえる。



道の駅 パーク七里御浜(ピネ) の満足度



(n=88)

道の駅に対して[とても満足]「満足」とする回答が過半数を占める。

現状のサービスや商品を維持しつつ、今後より良いサービスが求められる。

～主な声～

- ・ほしいものが揃っている
- ・駐車場が広い
- ・値段が手頃
- ・地域のものが手に入る
- ・お店が少ない
- ・パン屋など小さい商店が入ってほしい